

5.3 動植物調査

5.3.1 動物の生息の状況

動物の生息状況は、当該地域の自然特性を勘案し、大空町及びその周囲を対象に、文献により整理した。

大空町及びその周囲における確認種を抽出した文献と、各文献における調査対象及び調査範囲は、表 5-19 及び図 5-31 に示すとおりである。

表 5-19 文献名及び各文献における調査対象・調査範囲

文献 番号	文献名	分類群							調査対象・調査範囲
		哺乳 類	鳥 類	爬虫 類	両生 類	魚 類	昆虫 類	底生 動物	
1	北海道「北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック2001」	○	○	○	○	○	○		大空町が分布域として記載されている種を対象とした。なお、詳細な分布域の記載がない種も対象とした。
2	環境省「生物多様性情報システム 基礎調査データベース検索（第2～ 6回自然環境保全基礎調査 動植物 分布調査報告書）（2025年閲覧）」	○	○	○	○	○	○		大空町が含まれるメッシュ内で確認された種を対象とした。
3	環境省「生物多様性情報センター ガンカモ類の生息調査 平成27～ 令和6年度調査（2025年閲覧）」		○						大空町とその周辺で確認された種を対象とした。
4	環境省「第6回自然環境保全基礎調 査 種の多様性調査 鳥類繁殖分布 調査報告書」		○						大空町が含まれるメッシュ内で確認された種を対象とした。
5	環境省「鳥類等に関する風力発電 施設立地適正化のための手引き」		○						大空町が含まれるメッシュで確認された種を対象とした。
6	環境省「希少猛禽類調査（イヌワ シ・クマタカ）の結果について」		○						大空町が含まれるメッシュ内で確認された種を対象とした。
7	環境省「風力発電立地検討のため のセンシティブティマップ（2025 年閲覧）」		○						大空町が含まれるメッシュで確認された種を対象とした。
8	環境省「環境アセスメントデー タベース（2025年閲覧）」	○	○						大空町が含まれるメッシュで確認された種を対象とした。
9	環境省「平成25年度風力発電施設 に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整 備委託業務報告書」		○						北海道におけるハクチョウ類及びガンカモ類の渡りのルートを対象とした。

(1) 動物相の概要

表 5-19 に示した文献によると、大空町及びその周囲における動物相の概要は、表 5-20 に示すとおりである。

哺乳類は6目10科24種、鳥類は13目40科98種、爬虫類は1目3科4種、魚類は8目13科32種、昆虫類は14目111科491種が確認されている。

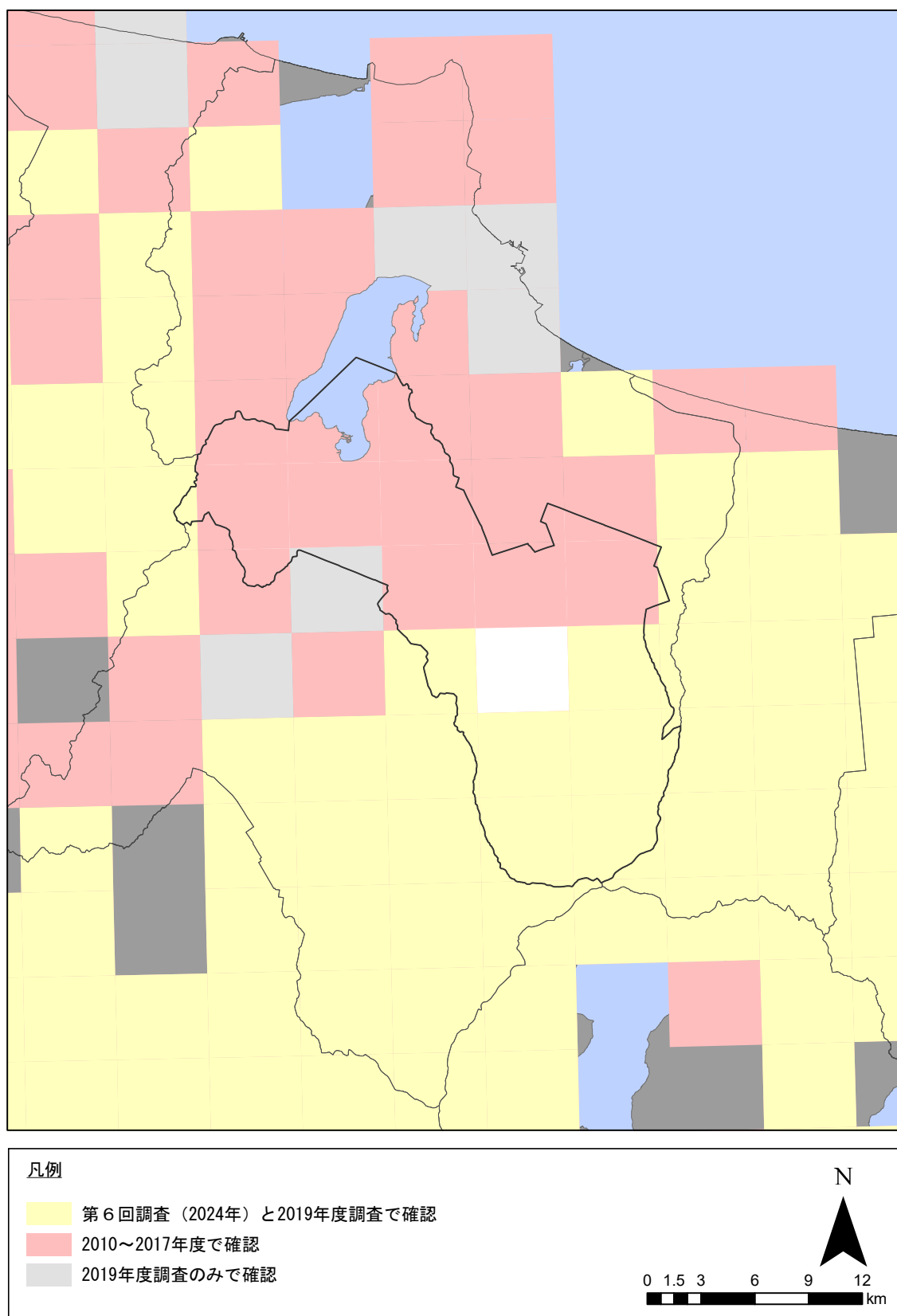
表 5-20 文献による主な動物相の概要

分類群	確認種数	主な確認種
哺乳類	6目10科24種	ジネズミ、モモジロコウモリ、オヒキコウモリ、ユキウサギ、キタリス、ムクゲネズミ、ヒグマ、キツネ、クロテン等
鳥 類	13目40科98種	シジュウカラガン、エゾライチョウ、ハリオアマツバメ、カッコウ、キジバト、タンチョウ、カイツブリ、コチドリ、アオサギ、オオワシ、カワセミ、アカゲラ、モズ、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ等
爬虫類	1目3科4種	ニホンカナヘビ、シマヘビ、ジムグリ、ニホンマムシ
両生類	0目0科0種	(大空町内に生息情報が確認できなかった。)
魚 類	8目13科32種	カワヤツメ、ギンブナ、ドジョウ、ワカサギ、イトヨ、メナダ、ハナカジカ、ルリヨシノボリ、ヌマガレイ等
昆虫類	14目111科491種	ホソミオツネントンボ、ツヅレサセコオロギ、ヤスマツトビナナフシ、コエゾゼミ、オオウスバカゲロウ、ヒメアミメトビケラ、ルリシジミ、クロマルハナバエ、ゲンゴロウ、チャイロスズメバチ等

a) 中大型哺乳類

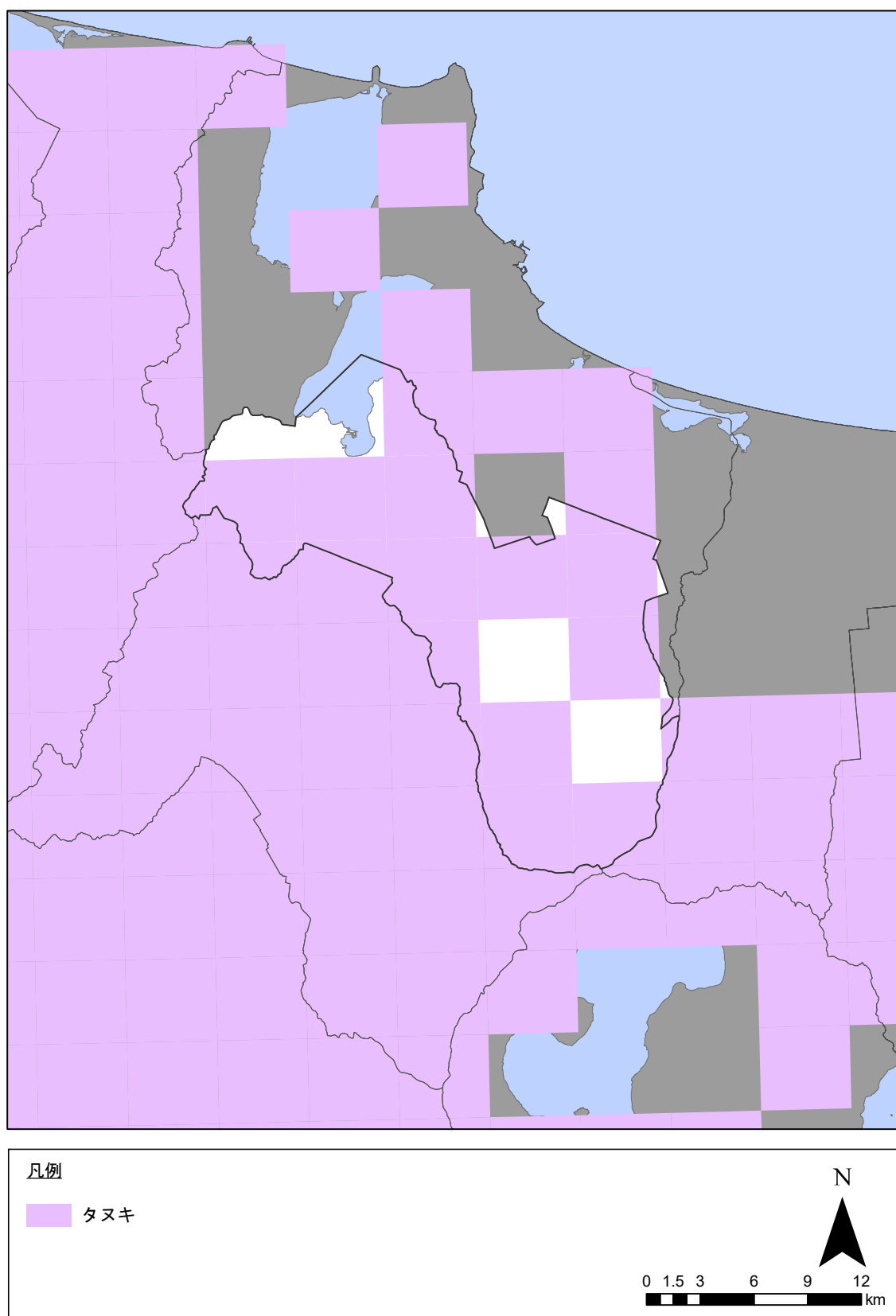
環境省「生物多様性情報システム 基礎調査データベース検索（第2～6回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書）」では、動植物の生息情報を一般公開している。このうち、大空町及びその周囲において、中大型哺乳類の生息情報が確認された場所（2次メッシュ）は図 5-32～図 5-34 に示すとおりである。

大空町及びその周囲には、ヒグマ、タヌキ、キツネの他、アライグマの生息情報がある。



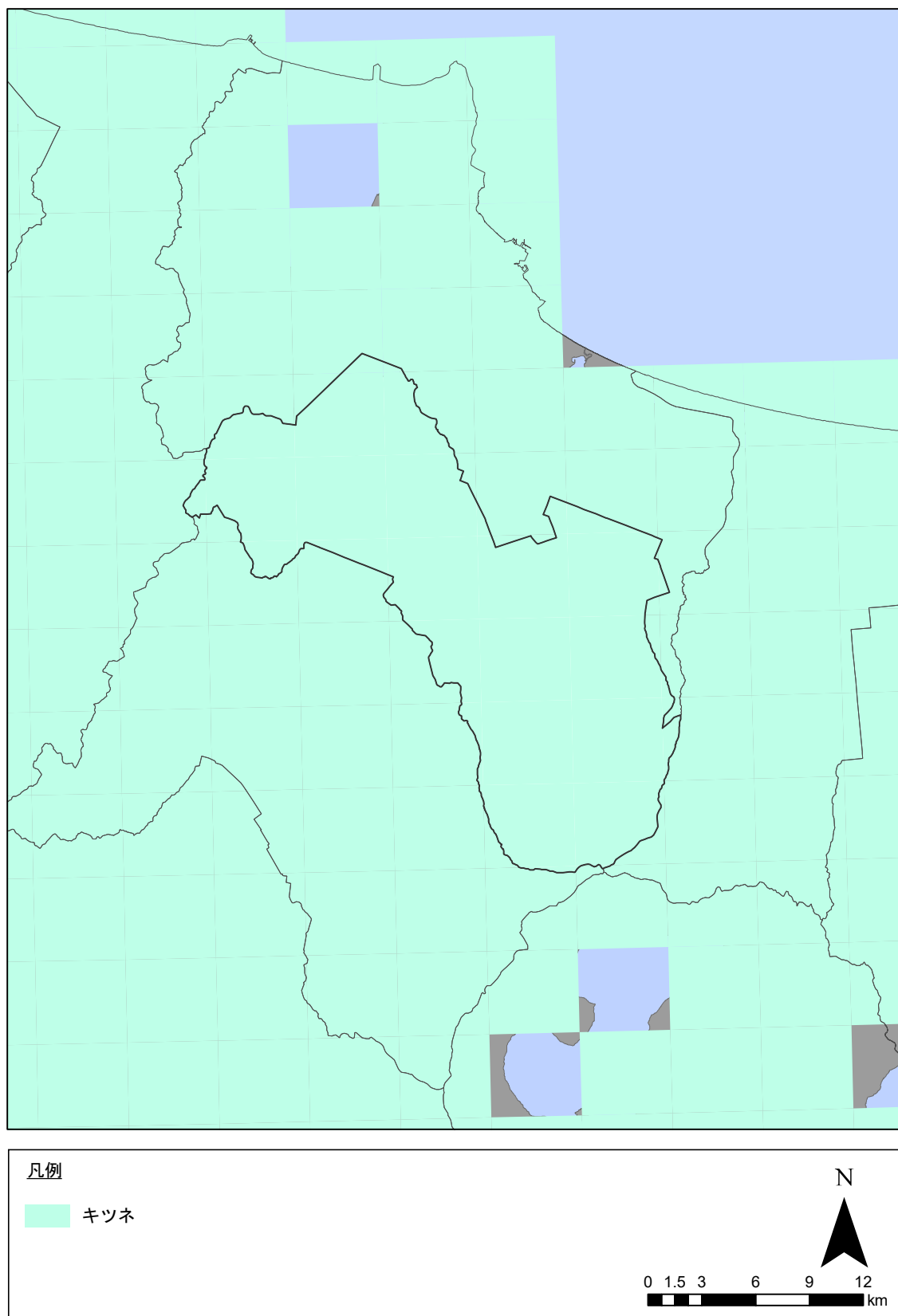
出典：環境省「生物多様性情報システム（第2～6回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書）（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-32 ヒグマが確認された場所（2次メッシュ）



出典：環境省「生物多様性情報システム（第2～6回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書）（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-33 タヌキが確認された場所（2次メッシュ）



出典：環境省「生物多様性情報システム（第2～6回自然環境保全基礎調査 動植物分布調査報告書）（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-34 キツネが確認された場所（2次メッシュ）

(2) 高高度を飛翔する動物相の生息情報

風力発電機の設置において影響を受けると懸念されるコウモリ類及び鳥類について、生息情報が確認された場所や移動経路等について整理した。

a) コウモリ類

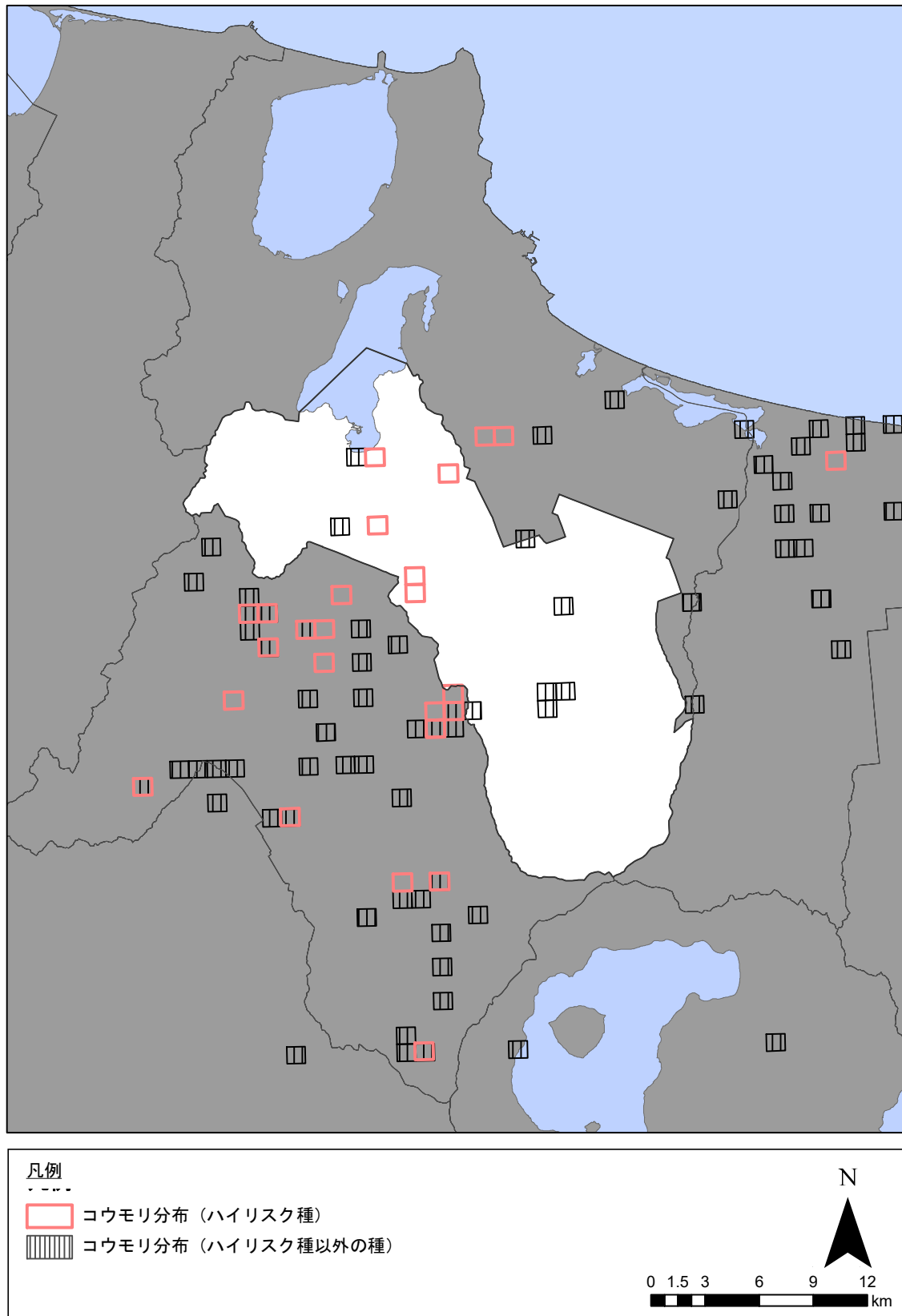
環境省「環境アセスメントデータベース」では、動植物の生息情報を一般公開している。

このうち大空町及びその周囲には、表 5-21 に示す 12 種の生息情報があり、このうち大空町内では、コテングコウモリ、チチブコウモリ、ドーベントンコウモリ、ニホンウサギコウモリ、ヒメヒナコウモリ、モモジロコウモリの生息情報がある。

大空町内においてコウモリ類の生息情報が確認された場所（3次メッシュ）は、図 5-35～図 5-41 に示すとおりである。

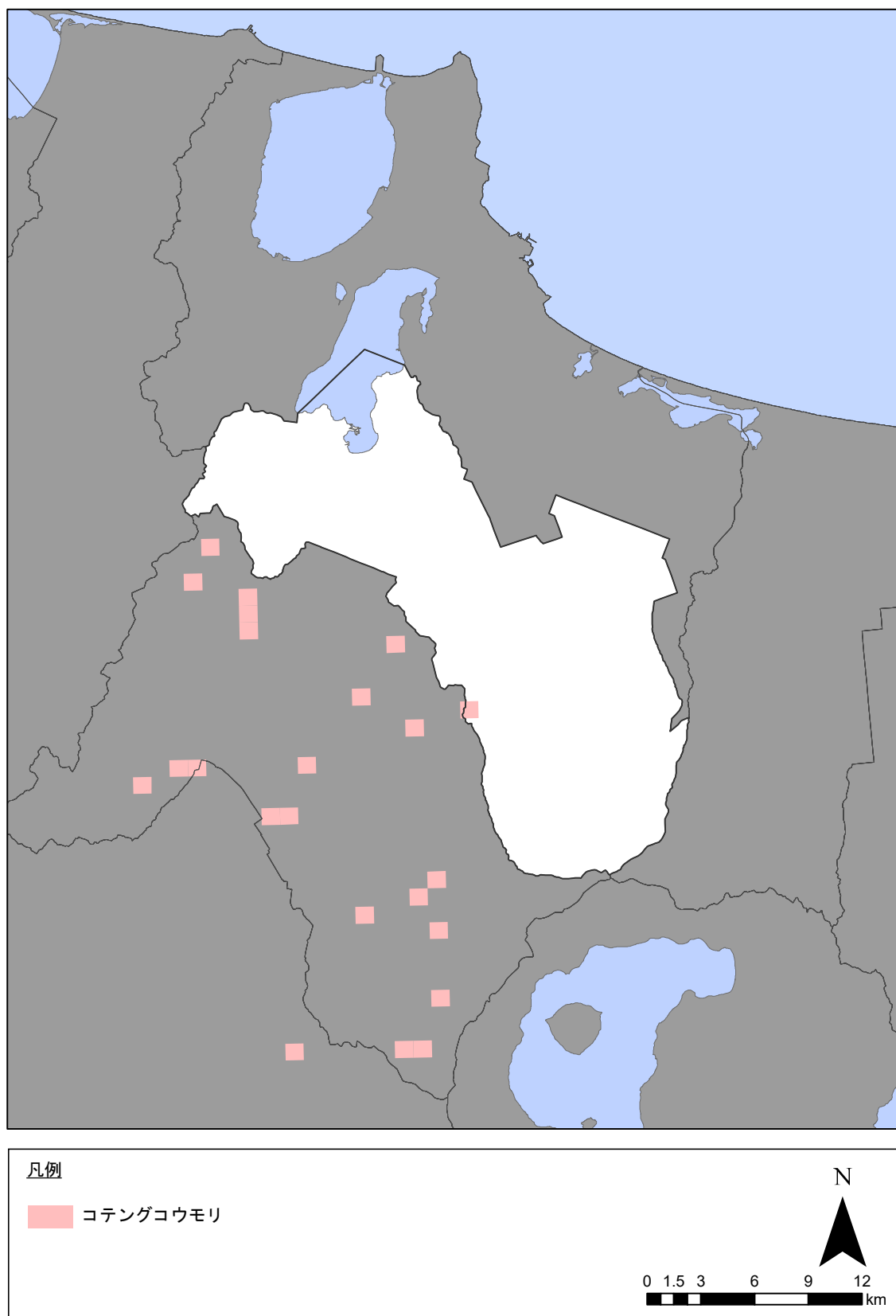
表 5-21 大空町及びその周囲で生息情報が確認されたコウモリ類

種名	大空町内での確認	大空町外での確認
ウスリホオヒゲコウモリ		○
カグヤコウモリ		○
キタクビワコウモリ		○
コテングコウモリ	○	○
チチブコウモリ	○	○
テングコウモリ		○
ドーベントンコウモリ	○	○
ニホンウサギコウモリ	○	○
ノレンコウモリ		○
ヒメヒナコウモリ	○	
ヒメホオヒゲコウモリ		○
モモジロコウモリ	○	○



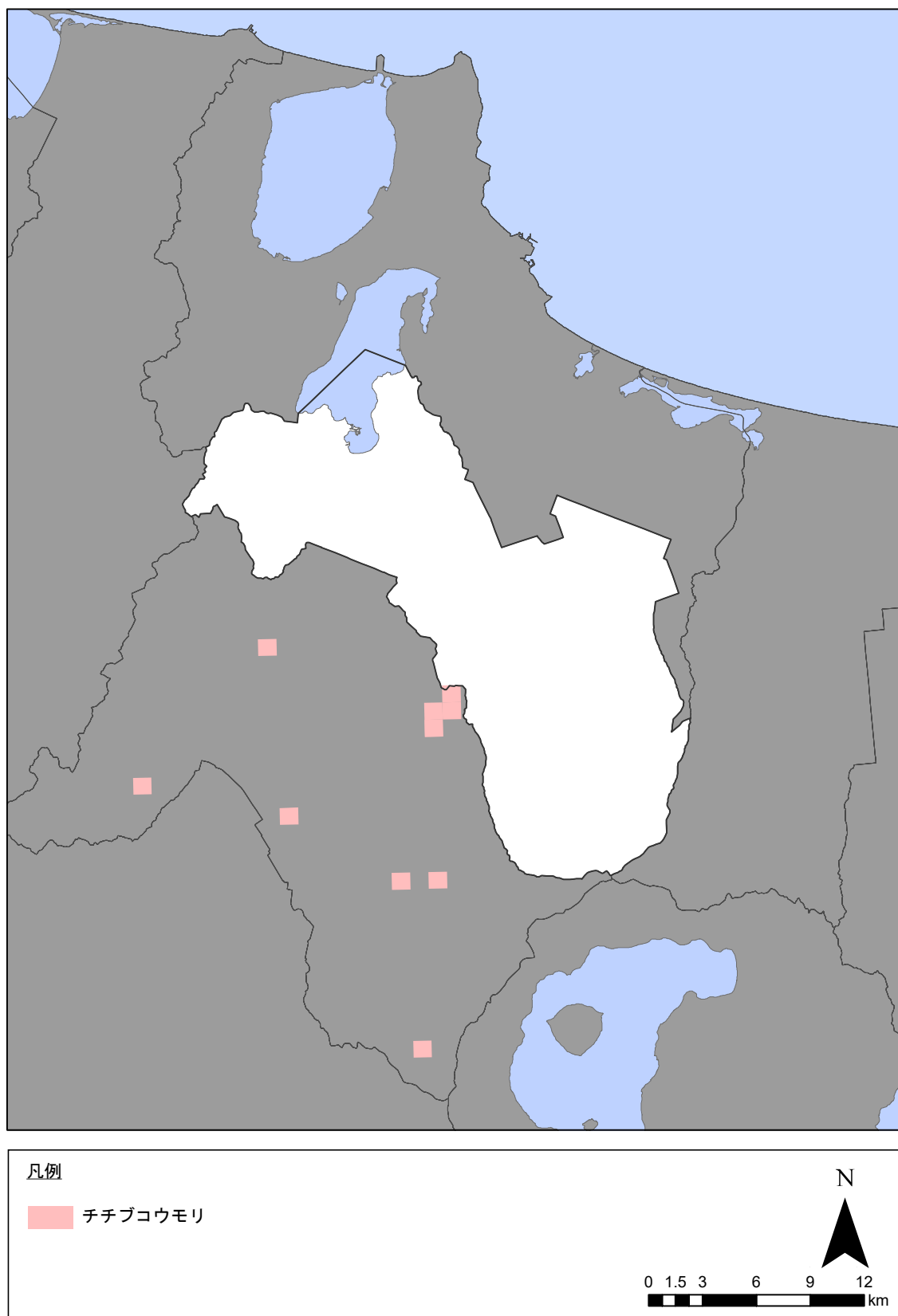
出典：環境省「環境アセスメントデータベース コウモリ生息状況（2025年閲覧）」を基に作成
 ※）ハイリスク種とは、風力発電施設によるバットストライクを受けやすい種を指す

図 5-35 コウモリ類が確認された場所（3次メッシュ）



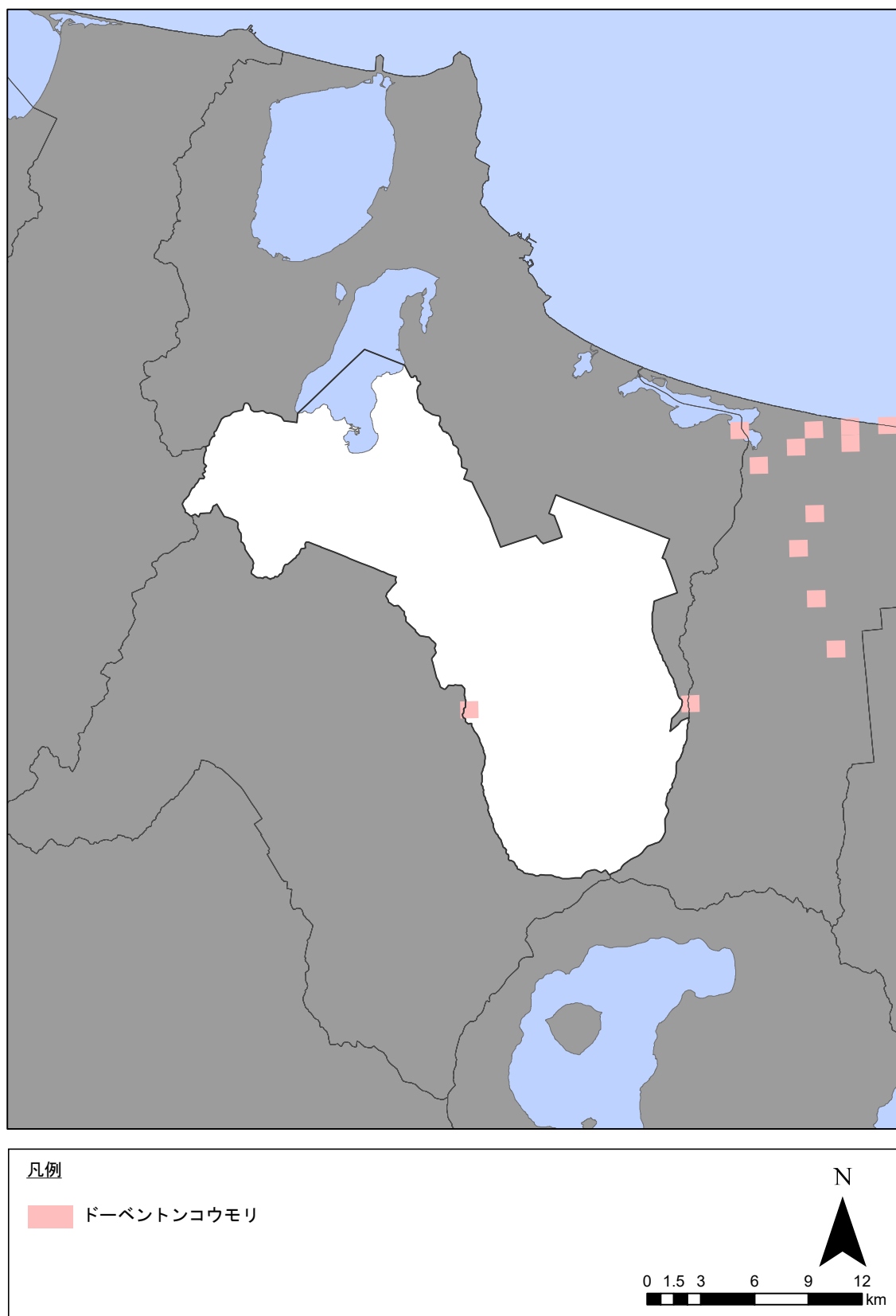
出典：環境省「環境アセスメントデータベース コウモリ生息状況（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-36 コテングコウモリ確認された場所（3次メッシュ）



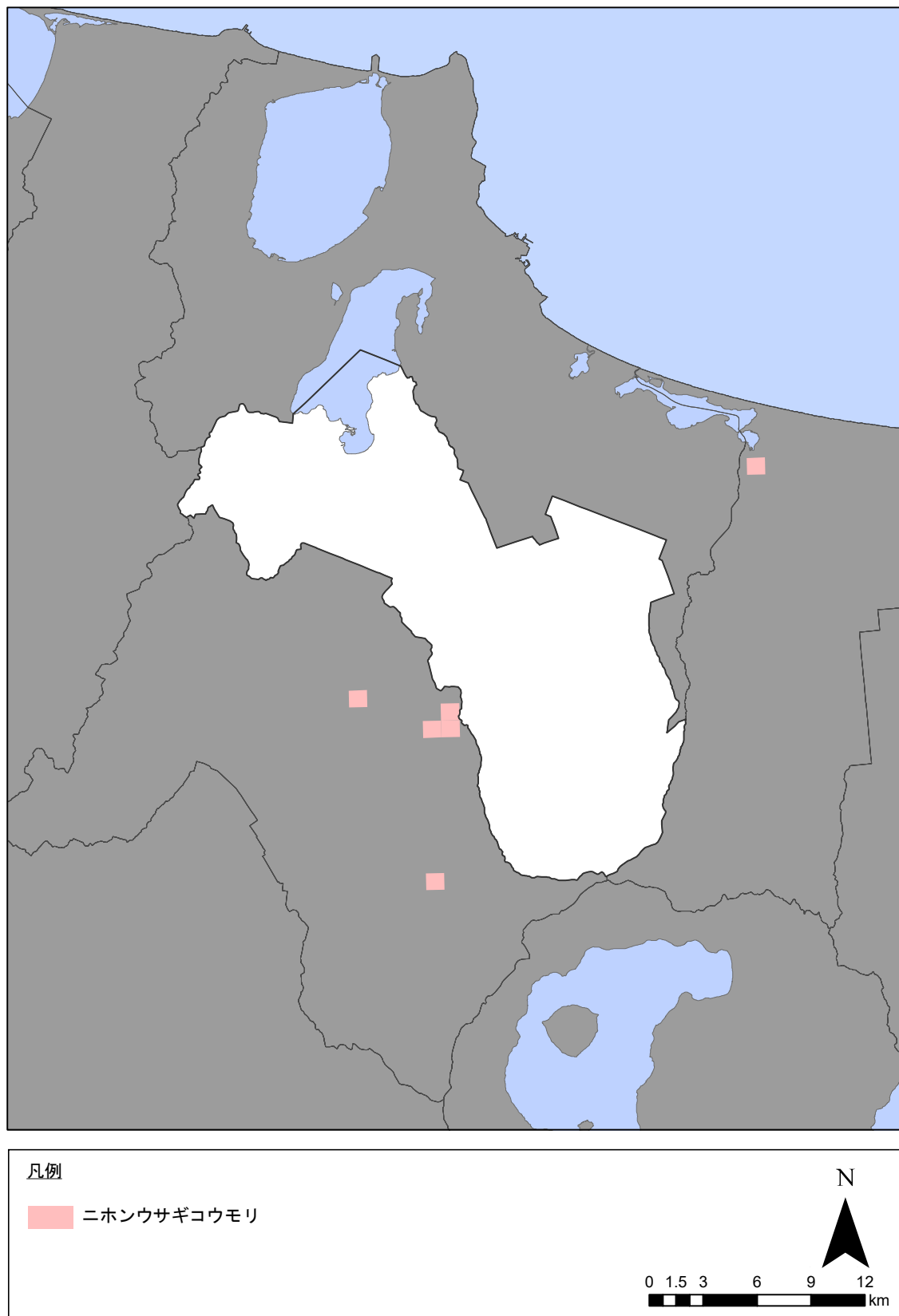
出典：環境省「環境アセスメントデータベース コウモリ生息状況（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-37 チチブコウモリが確認された場所（3次メッシュ）



出典：環境省「環境アセスメントデータベース コウモリ生息状況（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-38 ドーベントンコウモリが確認された場所（3次メッシュ）



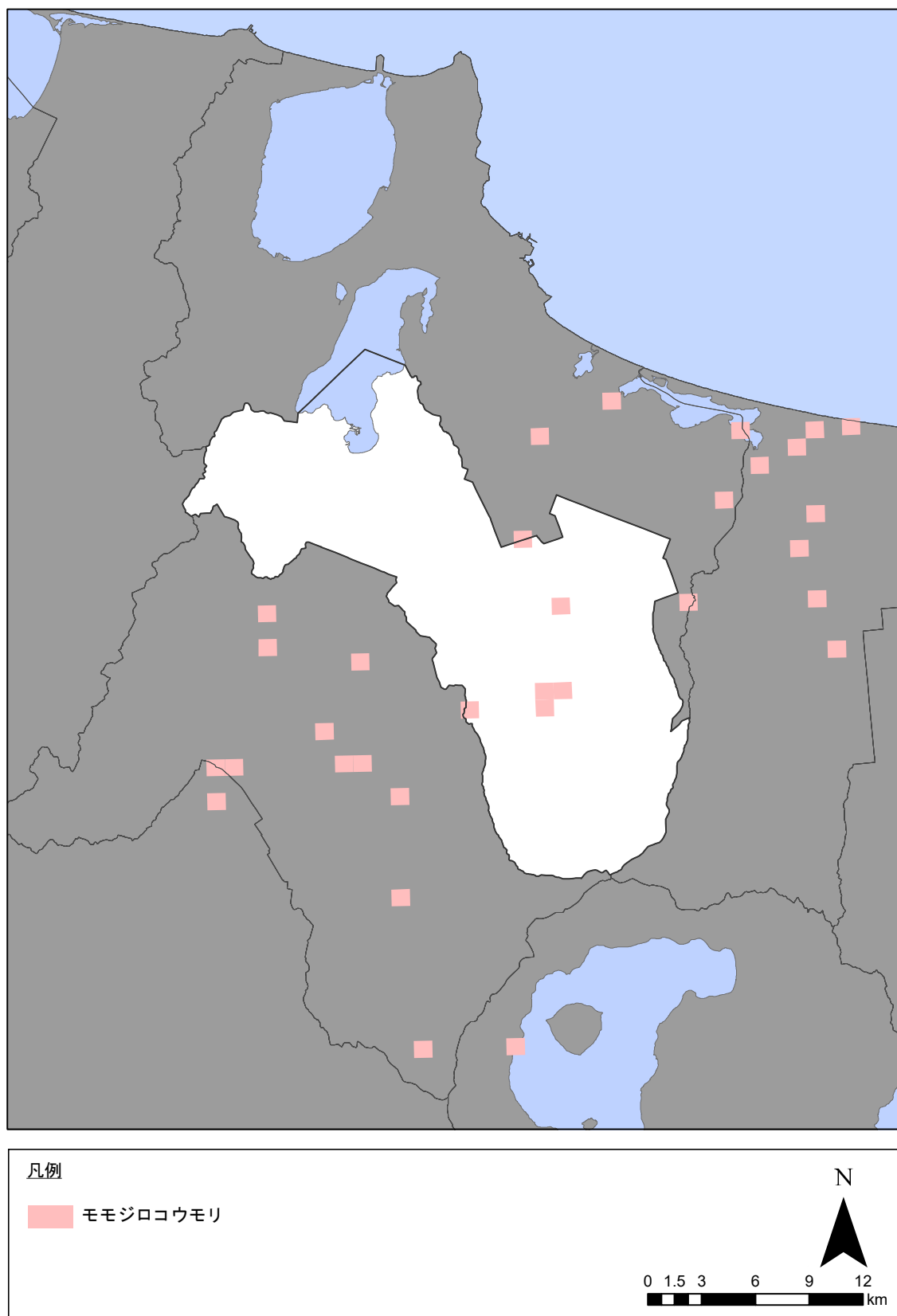
出典：環境省「環境アセスメントデータベース コウモリ生息状況（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-39 ニホンウサギコウモリが確認された場所（3次メッシュ）



出典：環境省「環境アセスメントデータベース コウモリ生息状況（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-40 ヒメヒナコウモリが確認された場所（3次メッシュ）



出典：環境省「環境アセスメントデータベース コウモリ生息状況（2025年閲覧）」を基に作成

図 5-41 モモジロコウモリが確認された場所（3次メッシュ）

a) 鳥類

環境省「生物多様性情報センター ガンカモ類の生息調査」には、ガンカモ類の渡来数が掲載されている。大空町及びその周囲にはガンカモ類の調査地点が9地点存在しており、図 5-42 に示すとおりである。また、平成27年度～令和6年度までの調査結果は、表 5-22～表 5-24 に示すとおりである。

調査結果によると、計16種のガンカモ類が確認されており、このうち、最も確認例が多い種はオオハクチョウであり、次いでホオジロガモが確認されている。また、調査地点別に見ると、網走川はホオジロガモが最も多く、濤沸湖、藻琴湖及び屈斜路湖ではオオハクチョウの確認数が最も多かった。なお、全ての地点でガン類は確認されなかった。

表 5-22 ガンカモ類の渡来状況 (1/3)

調査地点名	調査年度	種名															
		オオハク チヨウ	ハク チヨウ 類種 不明	マガ モ	ヨシ ガモ	ヒドリ ガモ	オナ ガガモ	ホシ ハジロ	キン クロ ハジロ	スズ ガモ	シノ リガモ	コオリ ガモ	ホオ ジロ ガモ	ウミ アイサ	カワ アイサ	ミコ アイサ	ツク シガモ
網走川－2	平成28年度			86								54		14	3		
	平成29年度	14										44		1	2		
	令和元年度											32		107			
	令和元年度	15										8		9			
	令和2年度	25		8								38		97			
	令和3年度											130					
	令和4年度																
	令和5年度			2								20					
令和6年度							30				2						
網走川－3	平成28年度																
	平成29年度	1		1								18					
	令和元年度									1		17					
	令和元年度											6					
	令和2年度			14								13		1			
	令和3年度											8					
	令和4年度																
	令和5年度													16			
令和6年度	4		2				3				65						
網走川－4	平成28年度											7		32			
	平成29年度	1										21					
	令和元年度	6										36		42			
	令和元年度			3								56		2			
	令和2年度			4								5		5			
	令和3年度	6										70		4	1		
	令和4年度																
	令和5年度											50					
令和6年度											12						

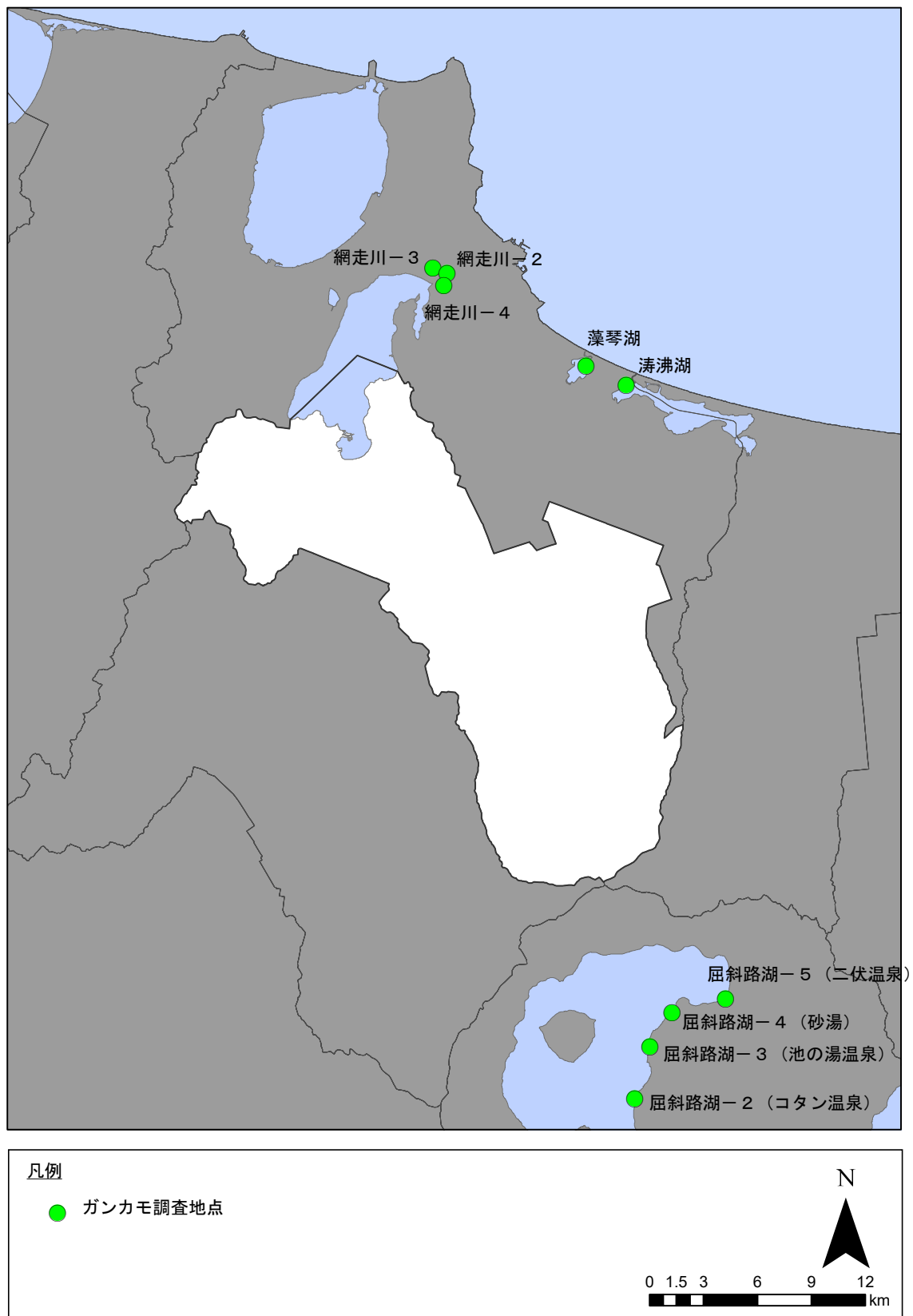
表 5-23 ガンカモ類の渡来状況 (2/3)

調査地点名	調査年度	種名																
		オオハク チヨウ	ハク チヨウ 類種 不明	マ ガ モ	ヨ シ ガ モ	ヒ ド リ ガ モ	オ ナ ガ ガ モ	ホ シ ハ ジ ロ	キン クロ ハ ジ ロ	ス ズ ガ モ	シ ノ リ ガ モ	コ オ リ ガ モ	ホ オ ジ ロ ガ モ	ウ ミ アイ サ	カ ワ アイ サ	ミ コ アイ サ	ツ ク シ ガ モ	オ オ ホ シ ハ ジ ロ
湊沸湖	平成27年度																	
	平成28年度	29						7		4		6		3				
	平成29年度	49		17					3			31		2				
	令和元年度	87		4	7			1	9	2		47	4	10				
	令和元年度	39		29						5		7		49				
	令和2年度	52		3	7				2			6	2	59				
	令和3年度	26		30					3			9		21				
	令和4年度	78		92					7		1	39	1	5				
	令和5年度	36		10								15		5				
	令和6年度	35		44			1	4		2			3	1			1	3
藻琴湖	平成28年度	48							7	3		35						
	平成29年度	11		43						4		30						
	令和元年度	190		2								20						
	令和元年度	101		10								129						
	令和2年度	80										150						
	令和3年度	7	14									30	5					
	令和4年度	50										17						
	令和5年度	6										10						
	令和6年度	2								5		25						
屈斜路湖ー2 (コタン温泉)	平成27年度	11																
	平成28年度																	
	平成29年度																	
	令和元年度	17																
	令和元年度																	
	令和2年度																	
	令和3年度																	
	令和4年度	3										4						
	令和5年度	11																
	令和6年度	63																
屈斜路湖ー3 (池の湯温泉)	平成27年度	130		17														
	平成28年度	108		22	1													
	平成29年度	93		24														
	令和元年度	64		28														
	令和元年度	68		39														
	令和2年度	80		30		10												
	令和3年度	51		26														
	令和4年度	92		8														
	令和5年度	95		13														
	令和6年度	98		28								6		7				

表 5-24 ガンカモ類の渡来状況 (3/3)

調査地点名	調査年度	種名																
		オオハク チヨウ	ハク チヨウ 類種 不明	マ ガ モ	ヨ シ ガ モ	ヒ ド リ ガ モ	オ ナ ガ ガ モ	ホ シ ハ ジ ロ	キン クロ ハ ジ ロ	ス ズ ガ モ	シ ノ リ ガ モ	コ オ リ ガ モ	ホ オ ジ ロ ガ モ	ウ ミ アイ サ	カ ワ アイ サ	ミ コ アイ サ	ツ ク シ ガ モ	オ オ ホ シ ハ ジ ロ
屈斜路湖－4 (砂湯)	平成27年度			28								14						
	平成28年度							5										
	平成29年度	16		69														
	令和元年度	27		52								3						
	令和元年度	13												11				
	令和2年度	1																
	令和3年度																	
	令和4年度	0		18														
	令和5年度																	
令和6年度	2		2									23		47				
屈斜路湖－5 (二伏温泉)	平成27年度	54		214		5												
	平成28年度	50		70														
	平成29年度	35		35														
	令和元年度	32		40														
	令和元年度	33		94														
	令和2年度	46		1														
	令和3年度	22		14								6		1				
	令和4年度	10		34														
	令和5年度	10		24									31					
令和6年度	51		3					11				7						

出典：環境省「生物多様性情報センター ガンカモ類の生息調査 平成27～令和6年度調査（2025年閲覧）」



出典：環境省「生物多様性情報センター ガンカモ類の生息調査（2025 年閲覧）」を基に作成

図 5-42 ガンカモ類の調査地点

環境省「風力発電立地検討のためのセンシティブティマップ」では、猛禽類の生息状況をメッシュ情報としてとりまとめ、風力発電機の設置において注意を喚起する場所を公開している。

このメッシュ情報による注意喚起レベルは図 5-44 に示すとおりであり、大空町を含むメッシュは、チュウヒ、オジロワシ、クマタカ等の分布及び鳥類の集団飛来地情報により、注意喚起レベル A2～C に該当し、これらは北側に集中している。

根拠となるチュウヒ、オジロワシ、クマタカ等の分布及び鳥類の集団飛来地は図 5-45～図 5-50 に示すとおりであり、いずれも大空町を含むメッシュが該当している。また、環境省「環境アセスメントデータベース」では鳥類の渡りルートが調査結果によりとりまとめられており、その結果は図 5-51 及び図 5-52 に示すとおりである。

鳥類の渡りルートについては、大空町の中央部が、同町の北東部に位置するラムサール条約登録湿地である濤沸湖へ渡来する鳥類の主要な動線となっていると考えられる。

【注意喚起メッシュとは】

注意喚起メッシュは、バードストライク等との関連性が高い重要種の分布や、鳥類の集団飛来地を示しており、そのレベルにより 10km メッシュ（標準地域メッシュの 2 次メッシュ）ごとに A、B、C の 3 つのランクで示されているものである（A ランクは A1、A2、A3 に区分される）。

重要種は、バードストライクとの関連性が高い種や生息地の改変に鋭敏な 10 種が選定され、それぞれ程度の高い方から 3、2、1 とランク付けが行われている。また、集団飛来地については、ガン類、ハクチョウ類、カモ類、シギ・チドリ類、カモメ類、ツル類、ウミネコの繁殖地、その他の水鳥類、海ワシ類及びその他の猛禽類が対象とされ、現地調査結果や文献による個体数データについて 10km メッシュごとにランクがつけられている。これら重要種と集団飛来地のランクを合計して、注意喚起レベルが決定されている（下図参照）。

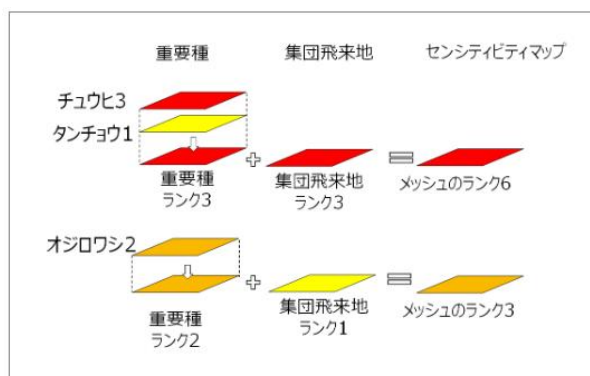
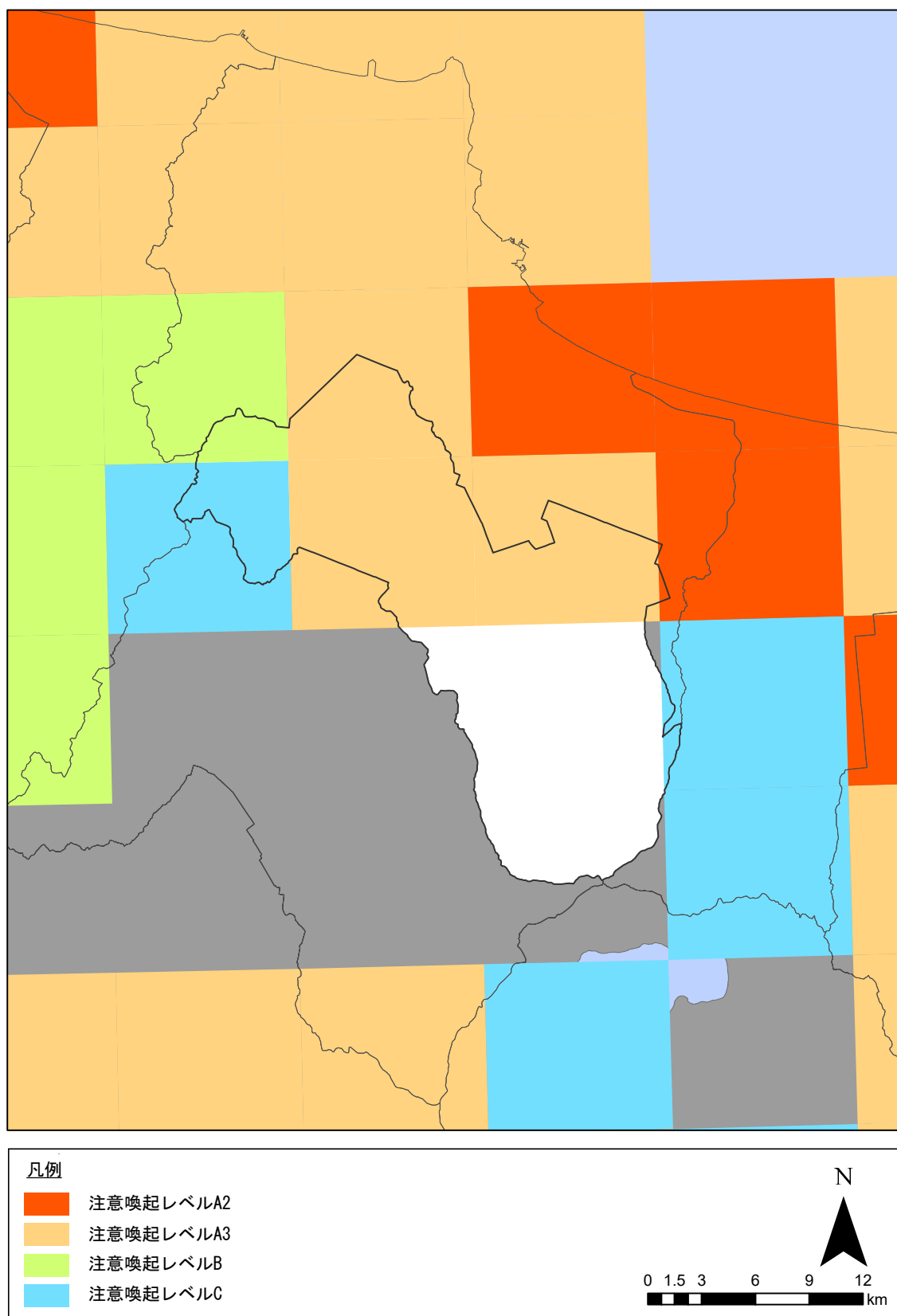
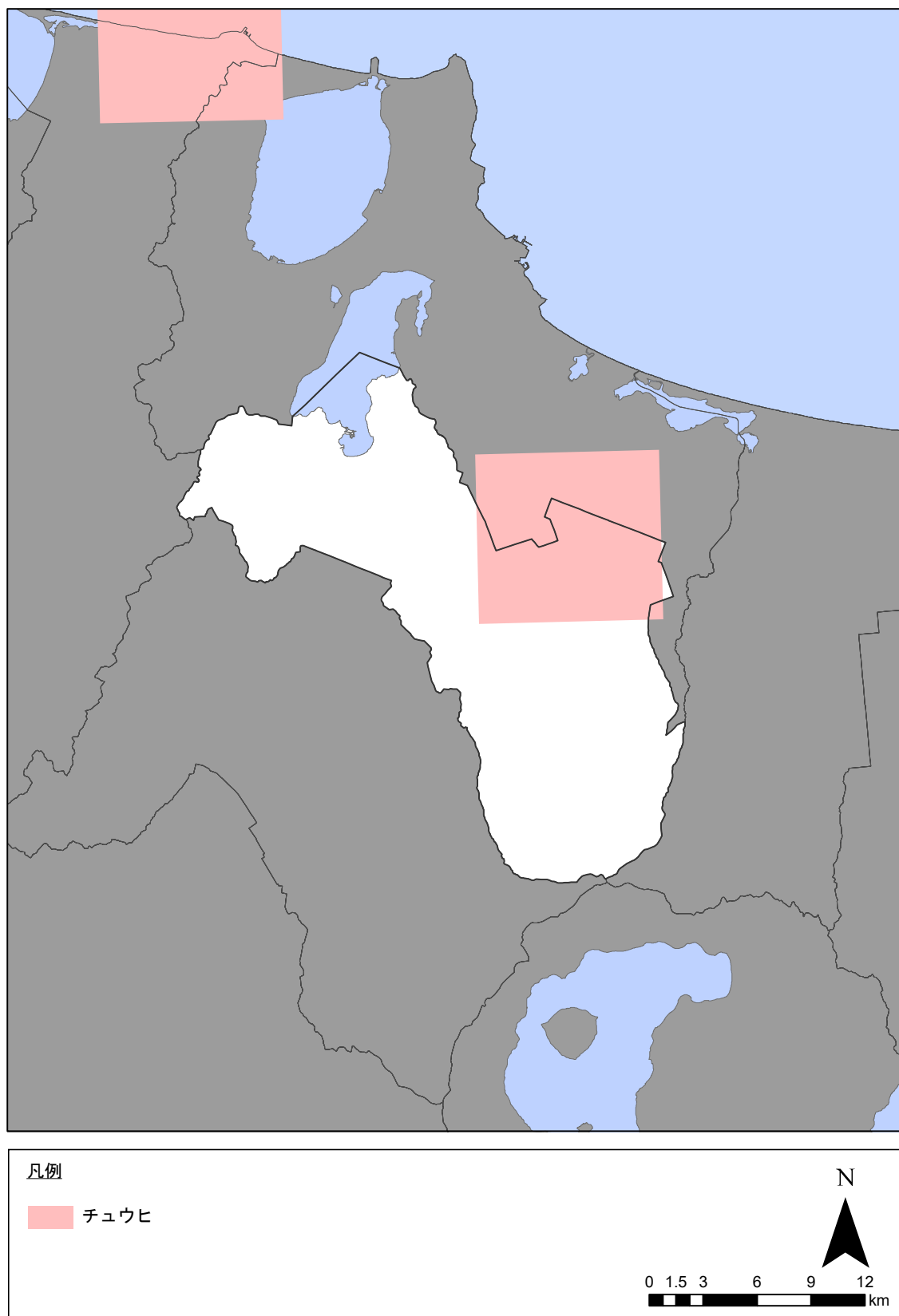


図 5-43 注意喚起レベルの決定方法(重要種と集団飛来地のメッシュの重ね合わせ)



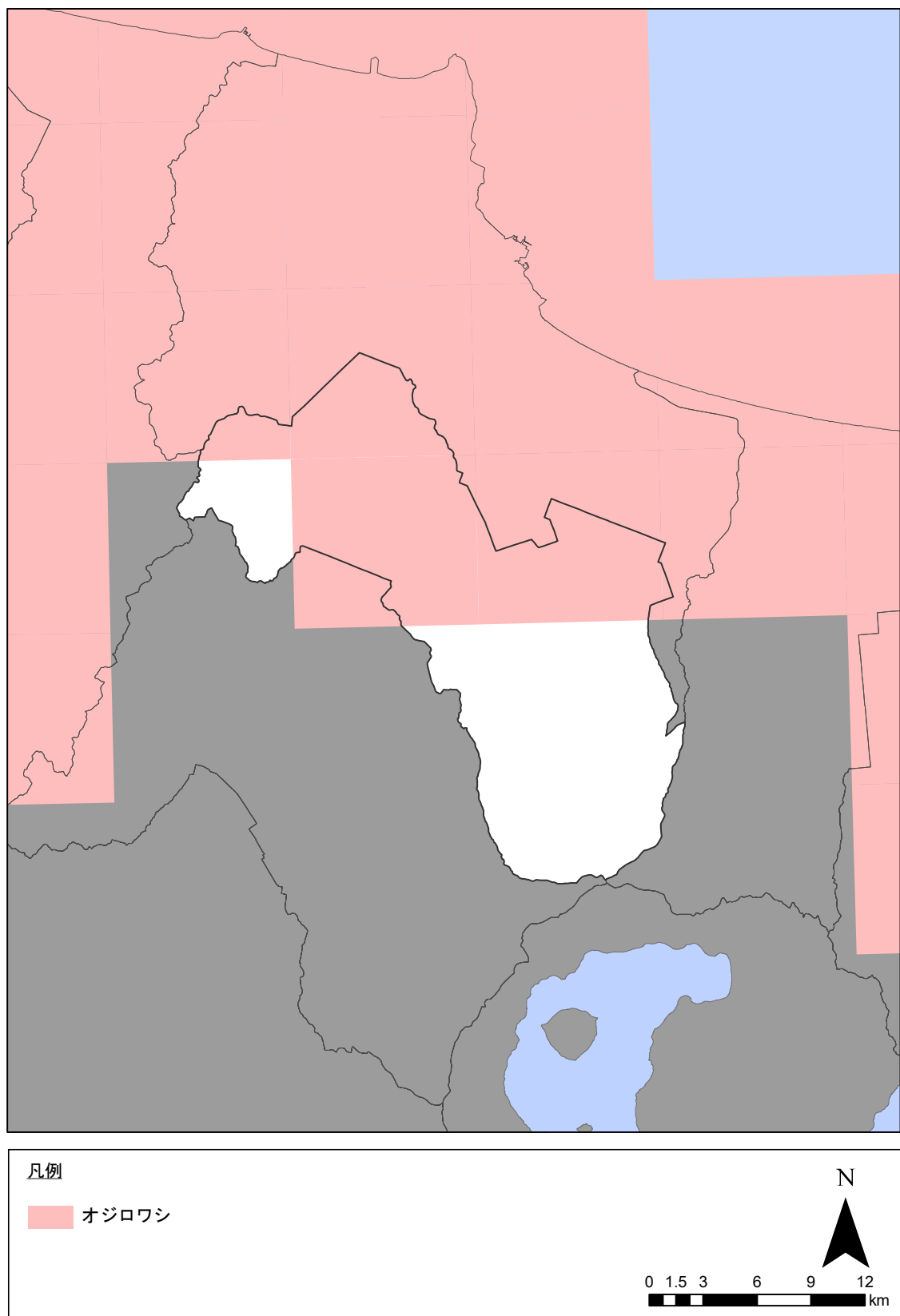
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 注意喚起メッシュ（2025 年閲覧）」を基に作成

図 5-44 センシティビティマップにおける注意喚起メッシュ（陸域）



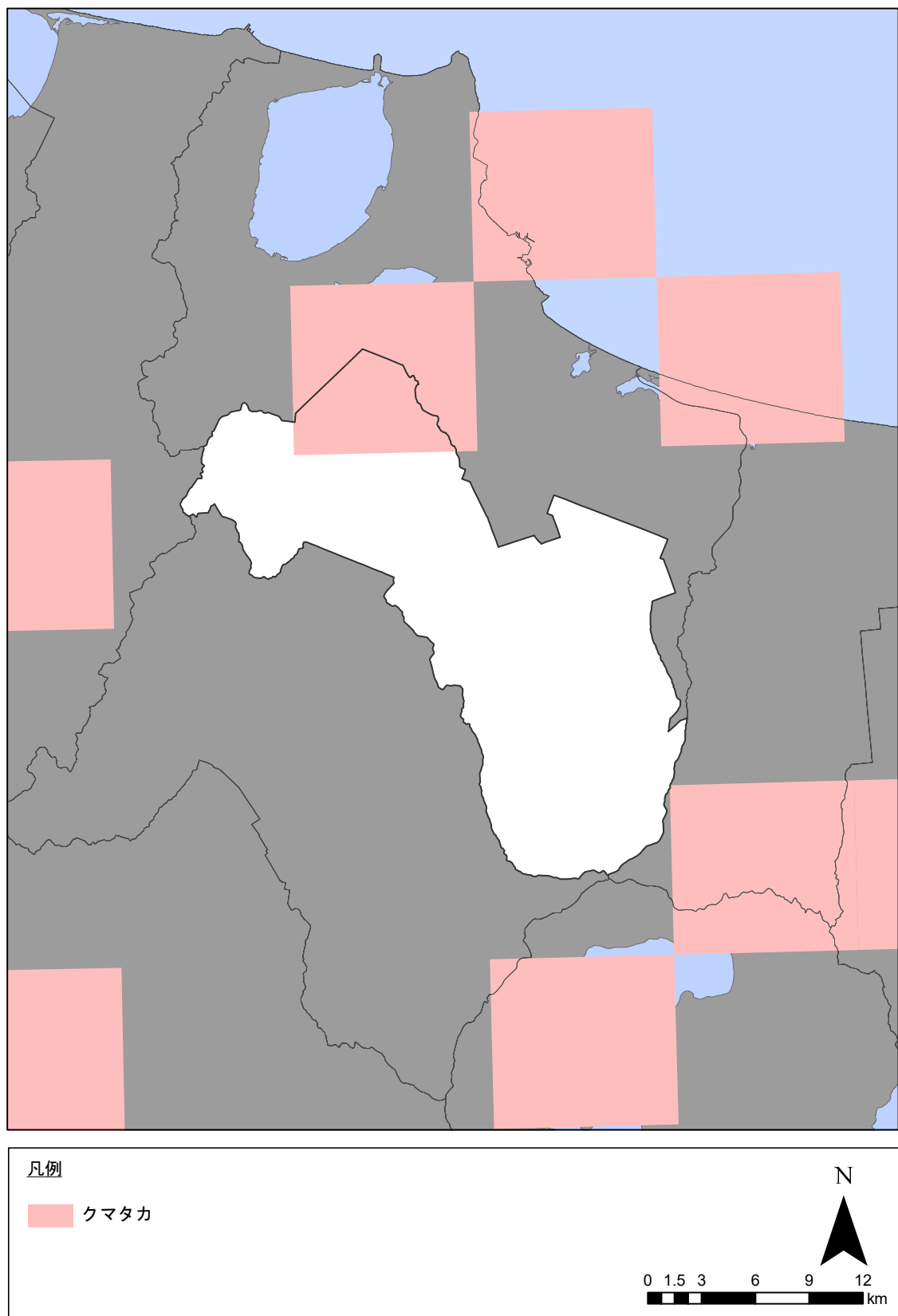
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 注意喚起メッシュ（2025 年閲覧）」を基に作成

図 5-45 センシティブティマップにおけるチュウヒの分布メッシュ



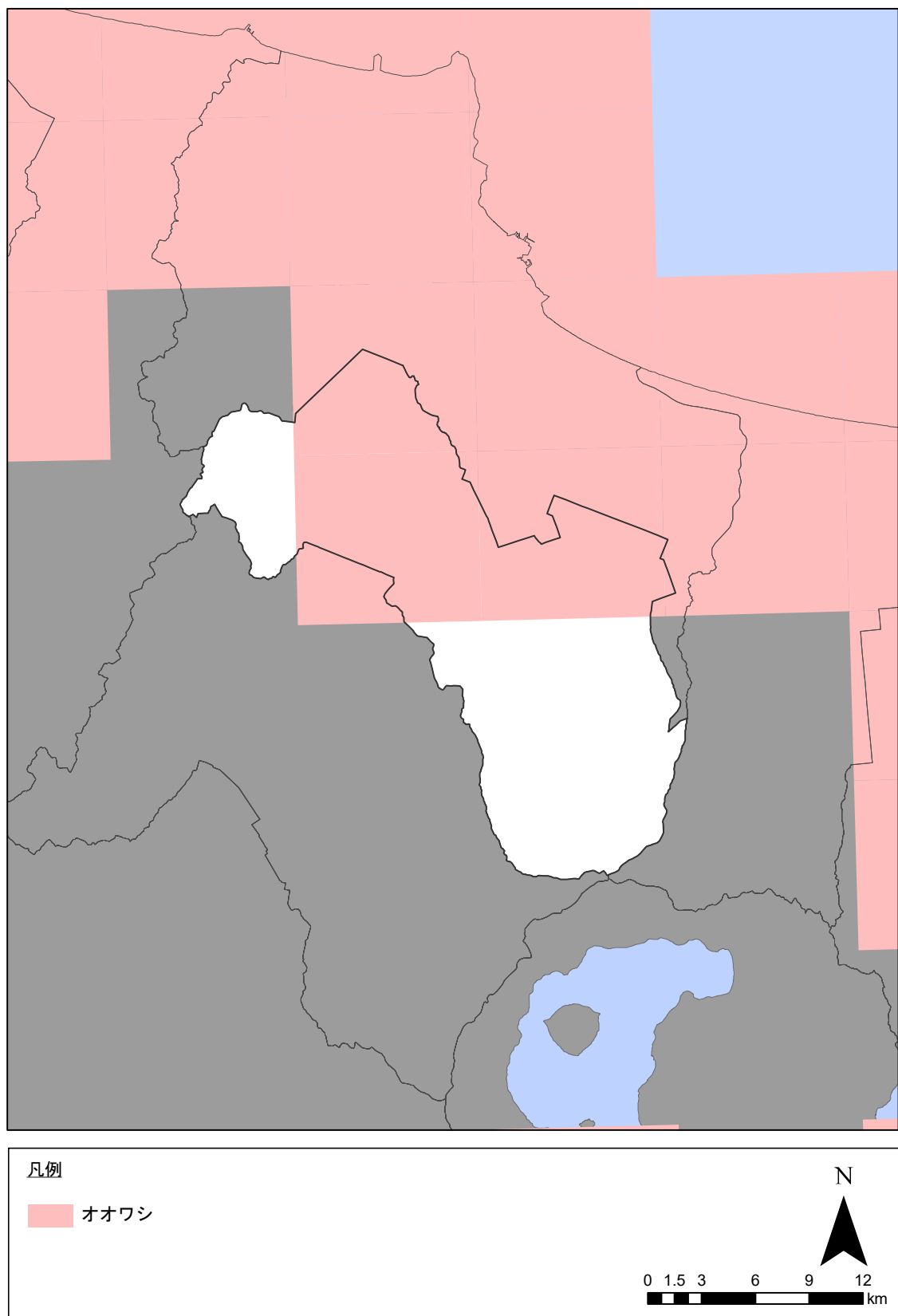
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 注意喚起メッシュ（2025 年閲覧）」を基に作成

図 5-46 センシティブティマップにおけるオジロワシの分布メッシュ



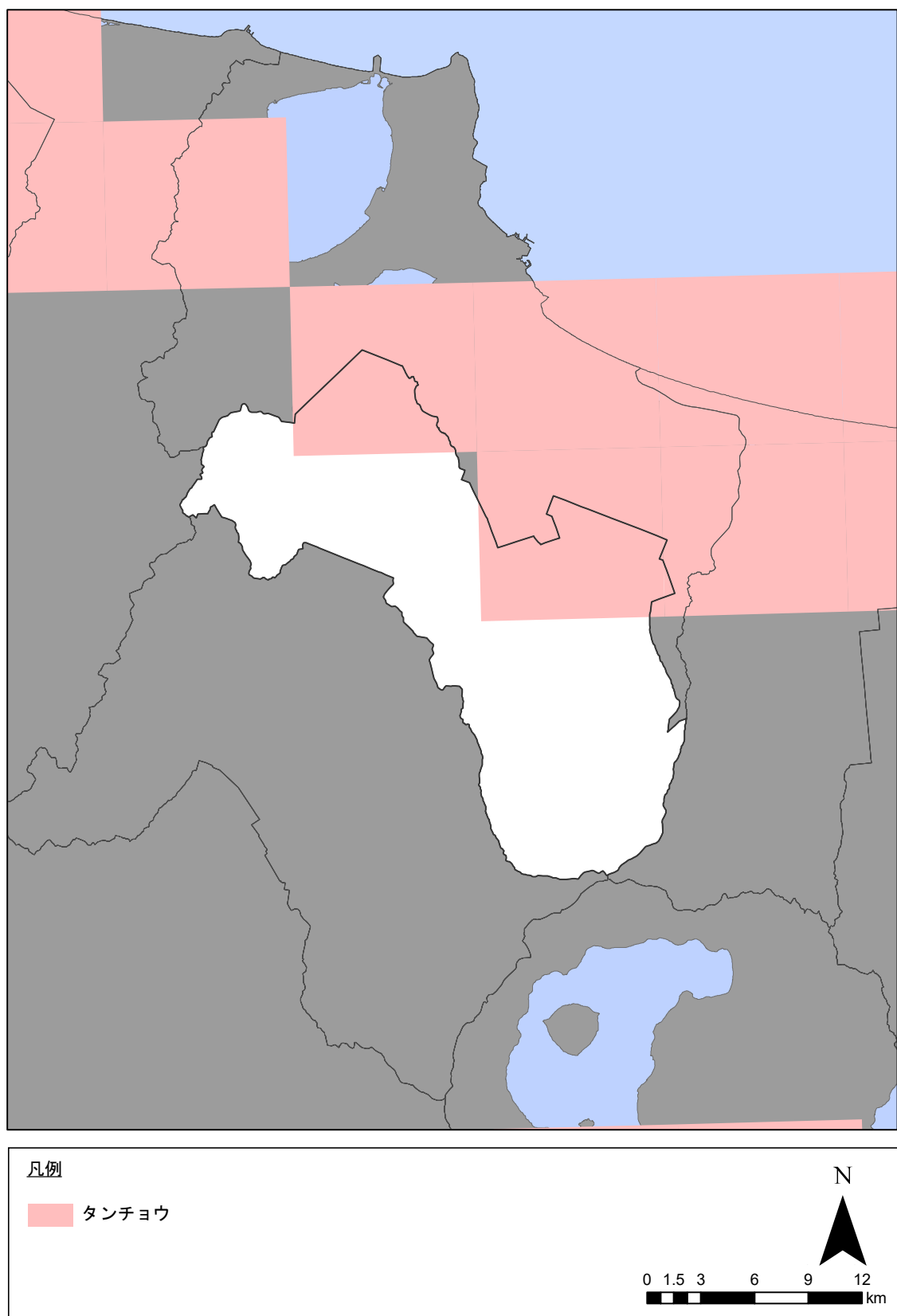
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 注意喚起メッシュ（2025 年閲覧）」を基に作成

図 5-47 センシティブティマップにおけるクマタカの分布メッシュ



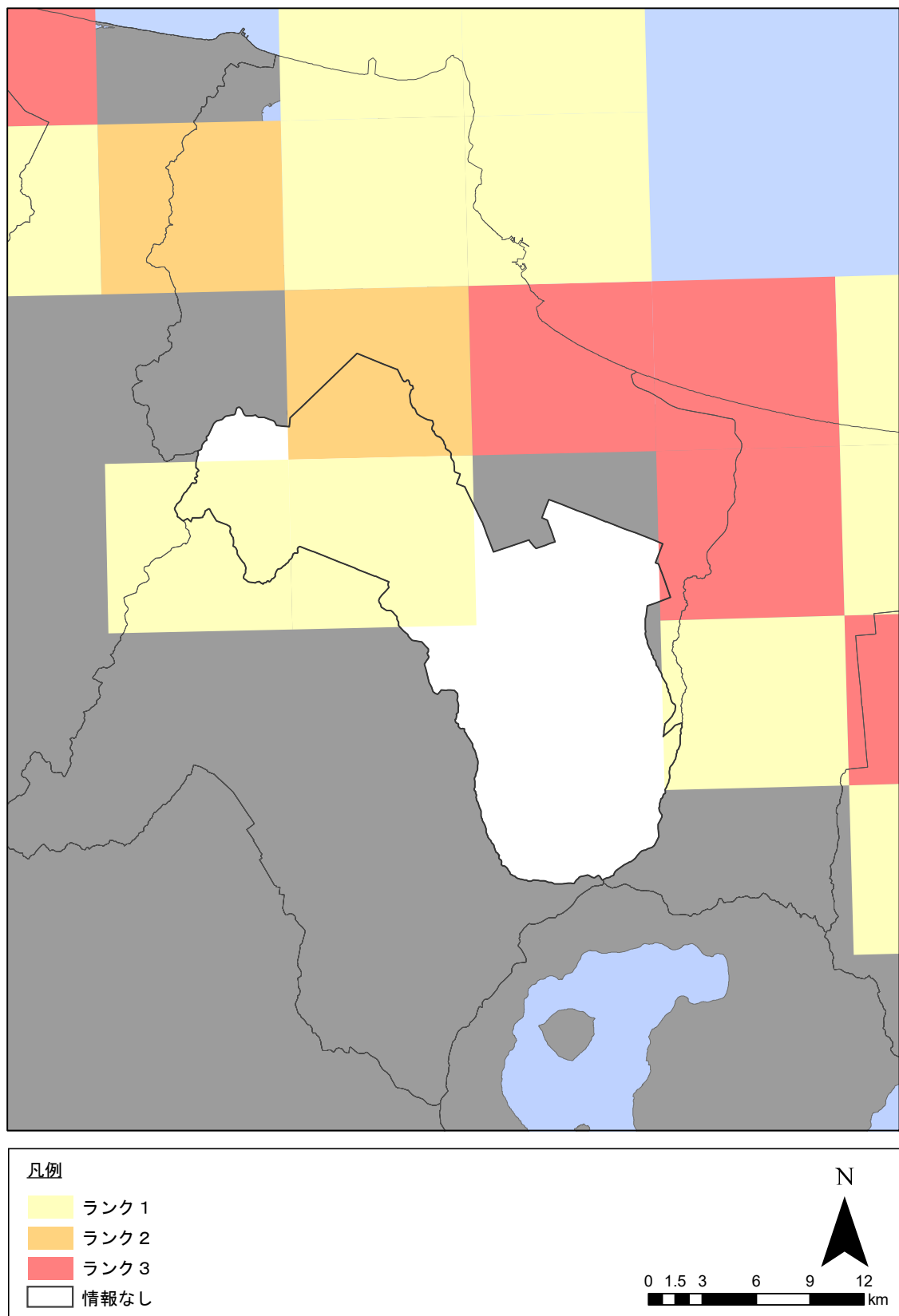
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 注意喚起メッシュ（2025 年閲覧）」を基に作成

図 5-48 センシティブティマップにおけるオオワシの分布メッシュ



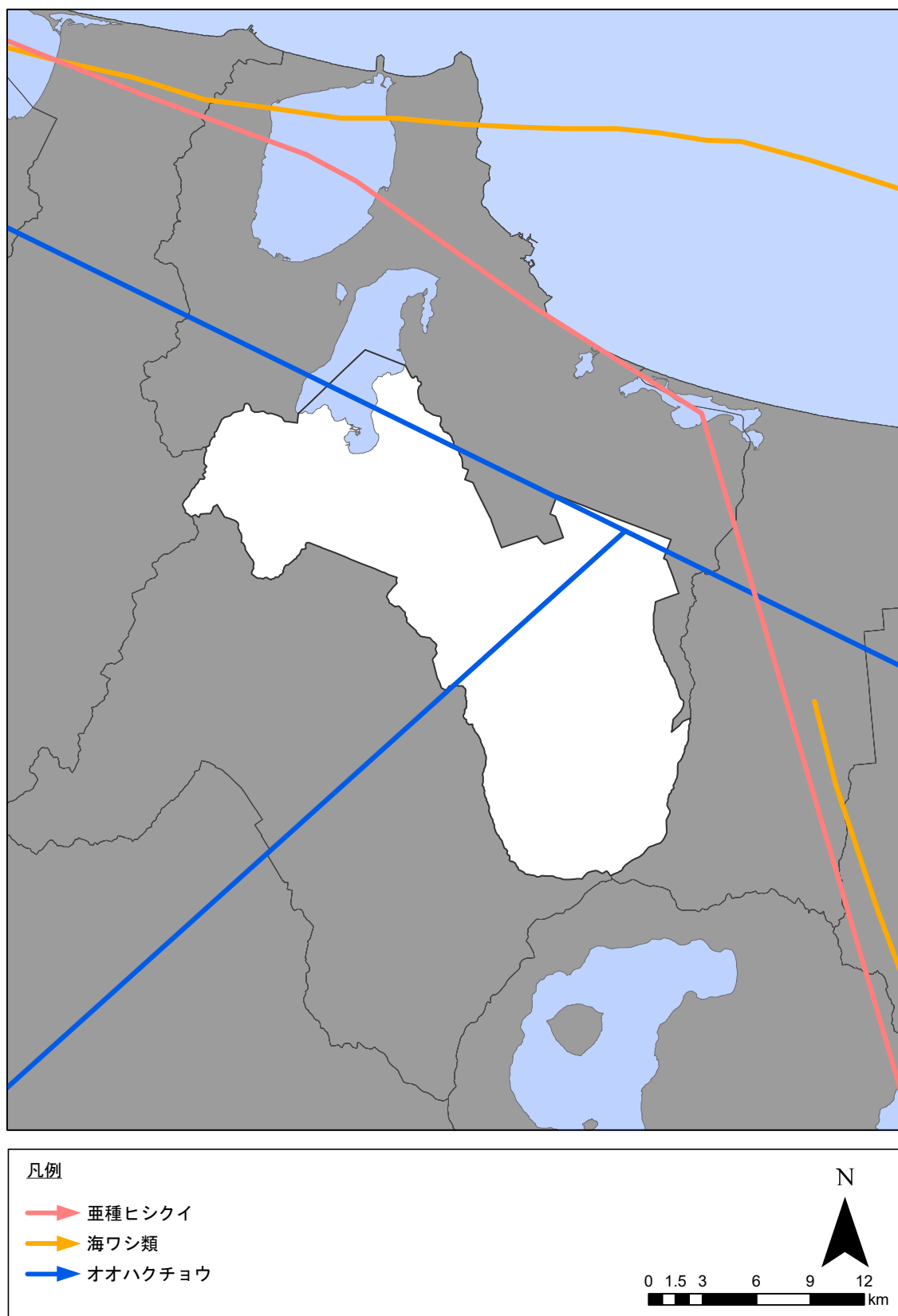
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 注意喚起メッシュ（2025 年閲覧）」を基に作成

図 5-49 センシティブティマップにおけるタンチョウの分布メッシュ



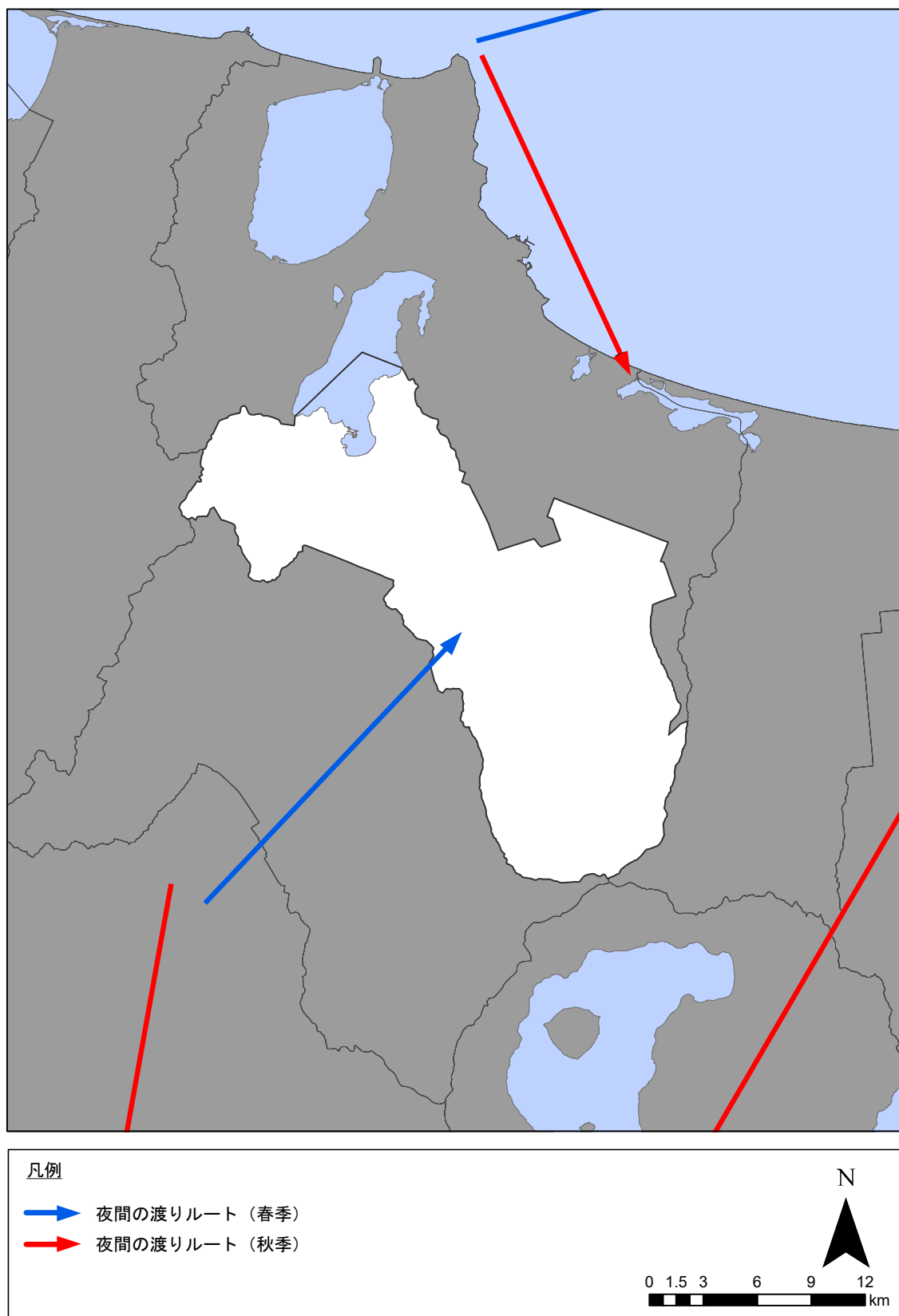
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 注意喚起メッシュ（2025 年閲覧）」を基に作成

図 5-50 センシティブティマップにおける集団飛来地メッシュ



出典：環境省「環境アセスメントデータベース 日中の渡りルート（2025 年閲覧）」を基に作成

図 5-51 センシティブティマップにおける日中の渡りルート



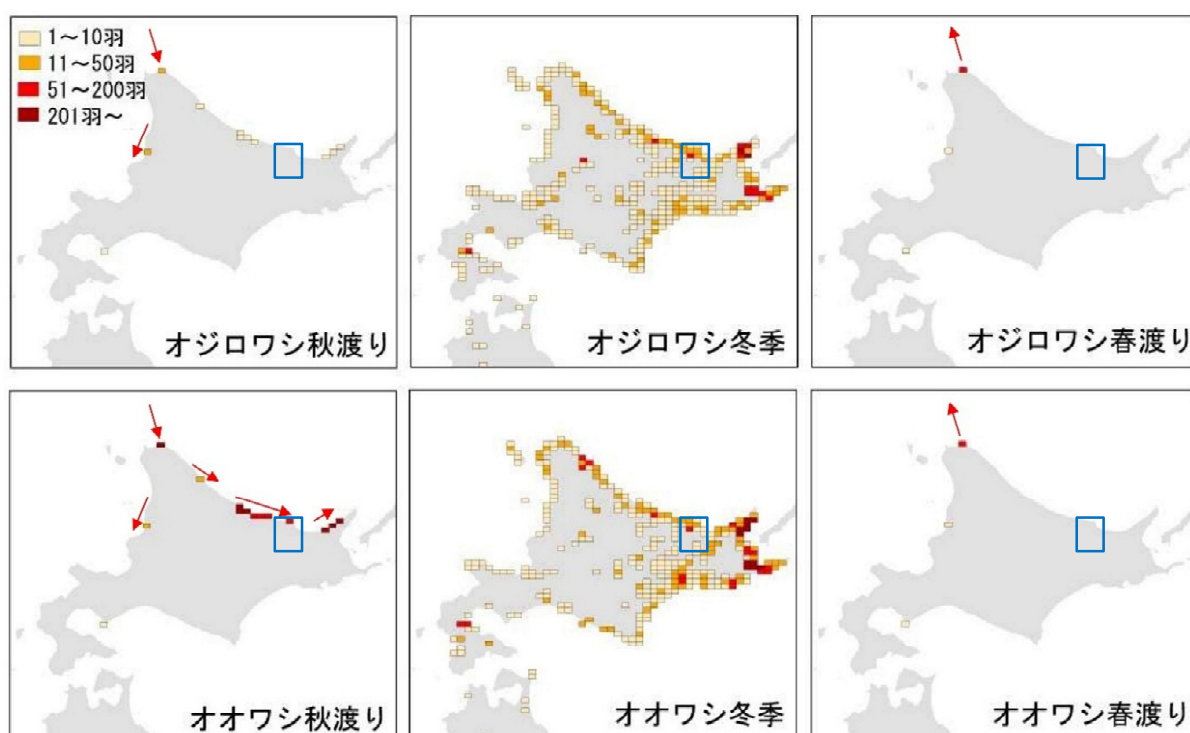
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 夜間の渡りルート（2025 年閲覧）」を基に作成

図 5-52 センシティブティマップにおける夜間の渡りルート

環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」には、猛禽類の渡り情報（渡り経路、タカ類の集結地等）及びガンカモ類の集結状況が掲載されている。猛禽類の渡り情報及びガンカモ類・ハクチョウ類の集結状況は、図 5-53～図 5-60 に示すとおりである。

大空町及びその周囲は、図 5-53 に示すとおり、オジロワシ及びオオワシの越冬地となっている可能性が高い。また、図 5-54、図 5-55 に示すとおり、マガン、ヒシクイ、コハクチョウの渡り期の集結地、オオハクチョウの越冬地及び渡り期の集結地となっている可能性がある。

なお、大空町及びその周囲には、その他の猛禽類の渡り経路や集結地等は確認されていない。

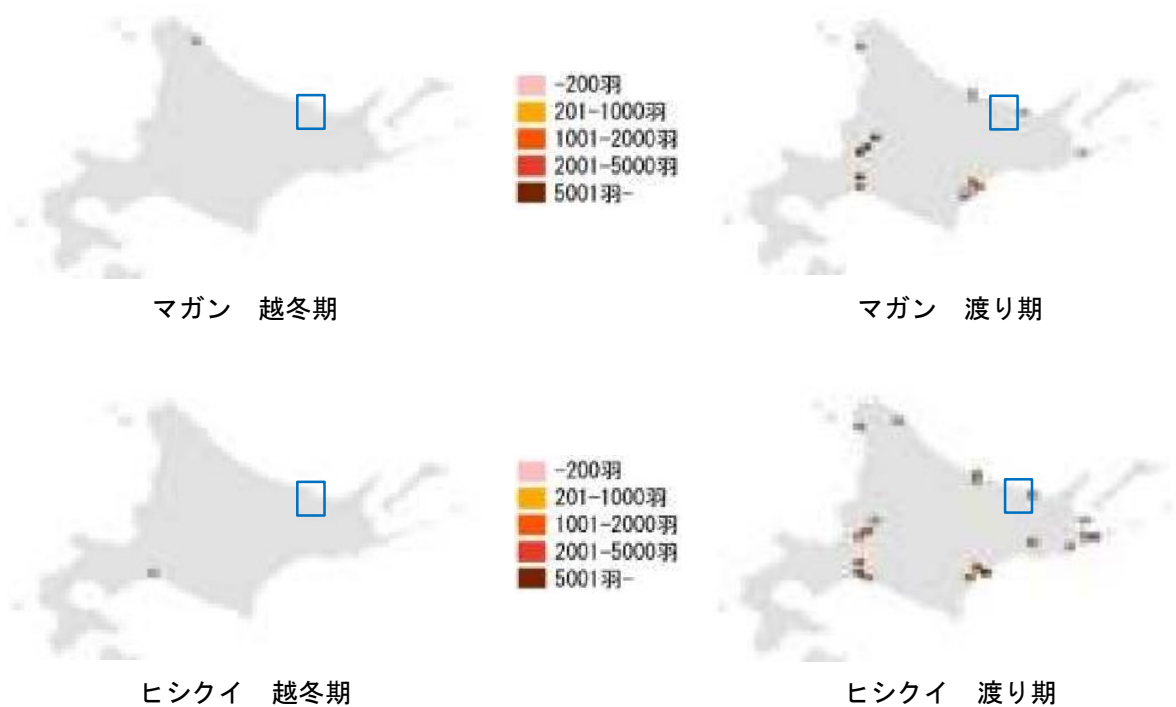


出典：環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」を基に作成

※) 矢印はある程度の規模の渡りが観察された位置を指す

※) 青色の四角は調査対象範囲のおおよその位置を指す

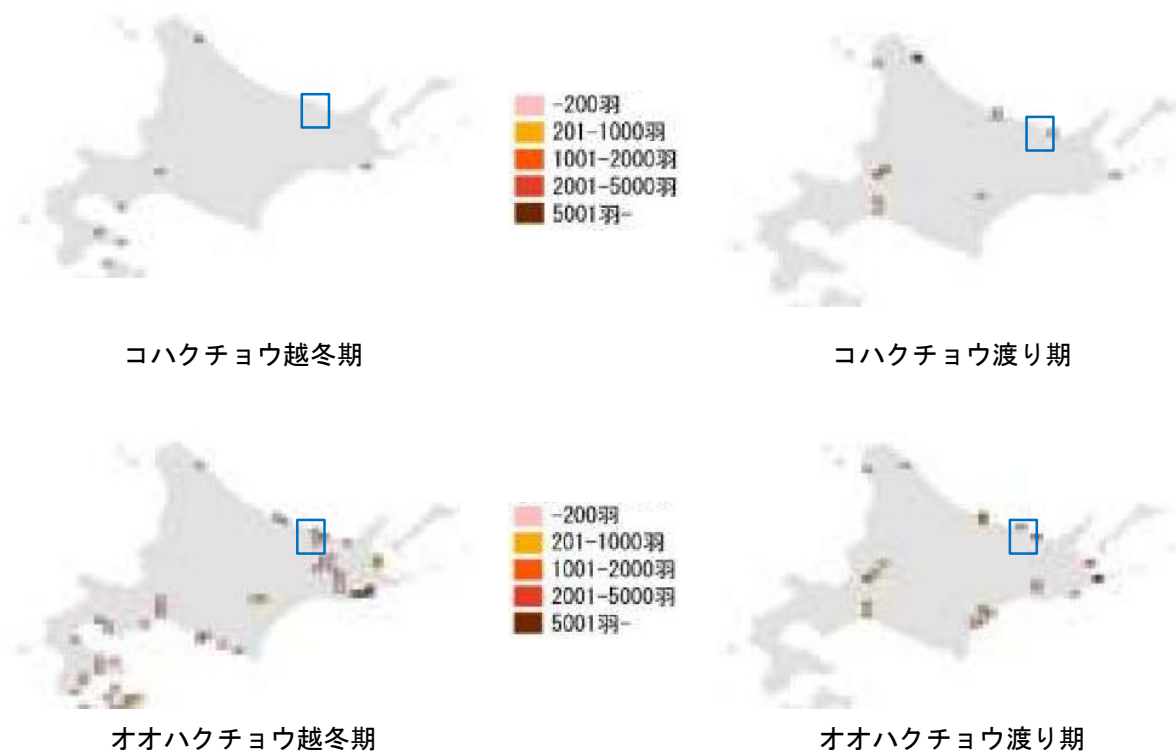
図 5-53 北海道における海ワシ類の渡り調査結果



出典：環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」を基に作成

※) 青色の四角は調査対象範囲のおおよその位置を指す

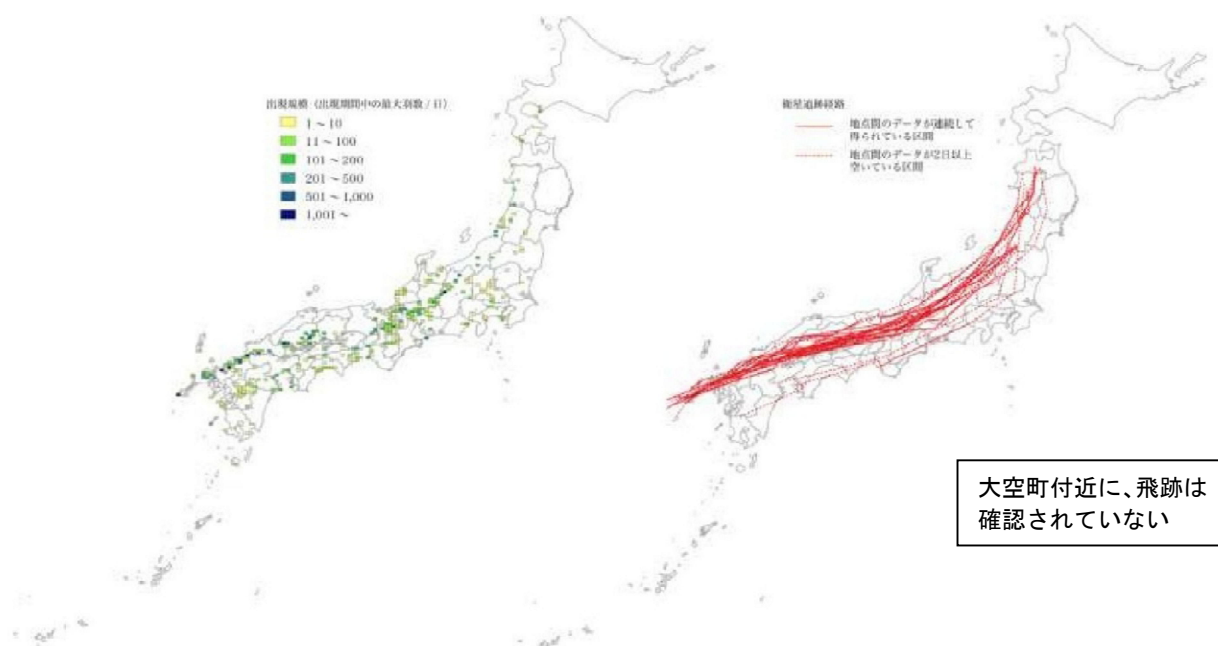
図 5-54 マガン、ヒシクイの集結地



出典：環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」を基に作成

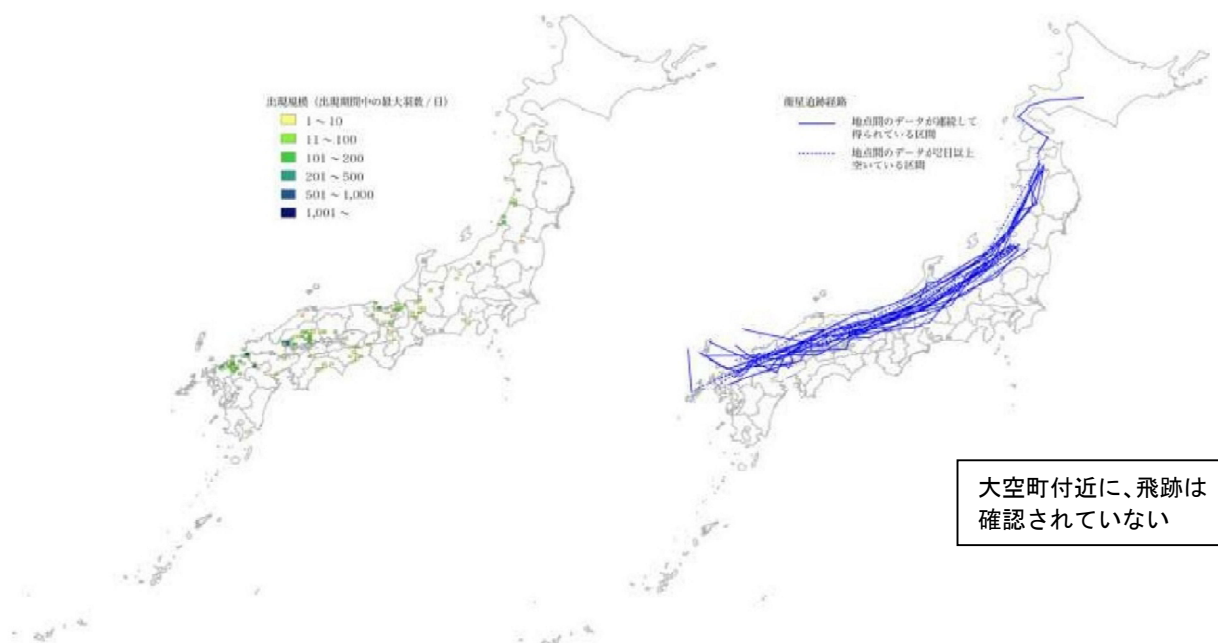
※) 青色の四角は調査対象範囲のおおよその位置を指す

図 5-55 ハクチョウ類の集結地



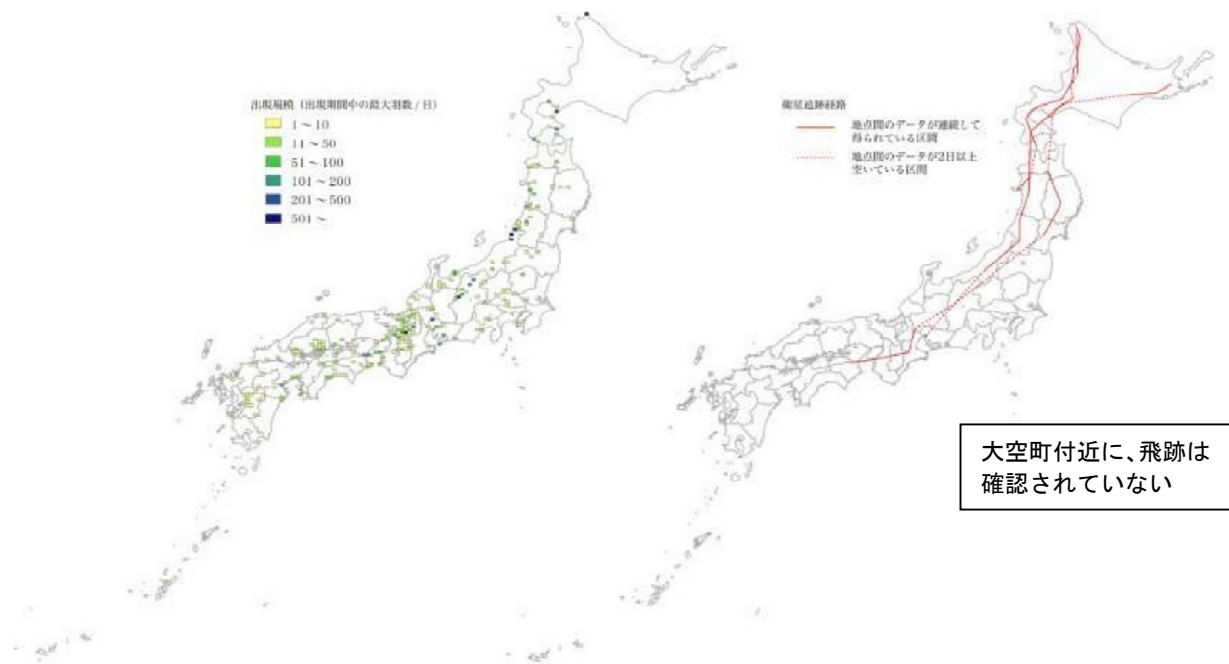
出典：環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」を基に作成
 ※) 衛星追跡経路図は 20 個体の結果に基づく

図 5-56 ハチクマの秋季の渡り経路



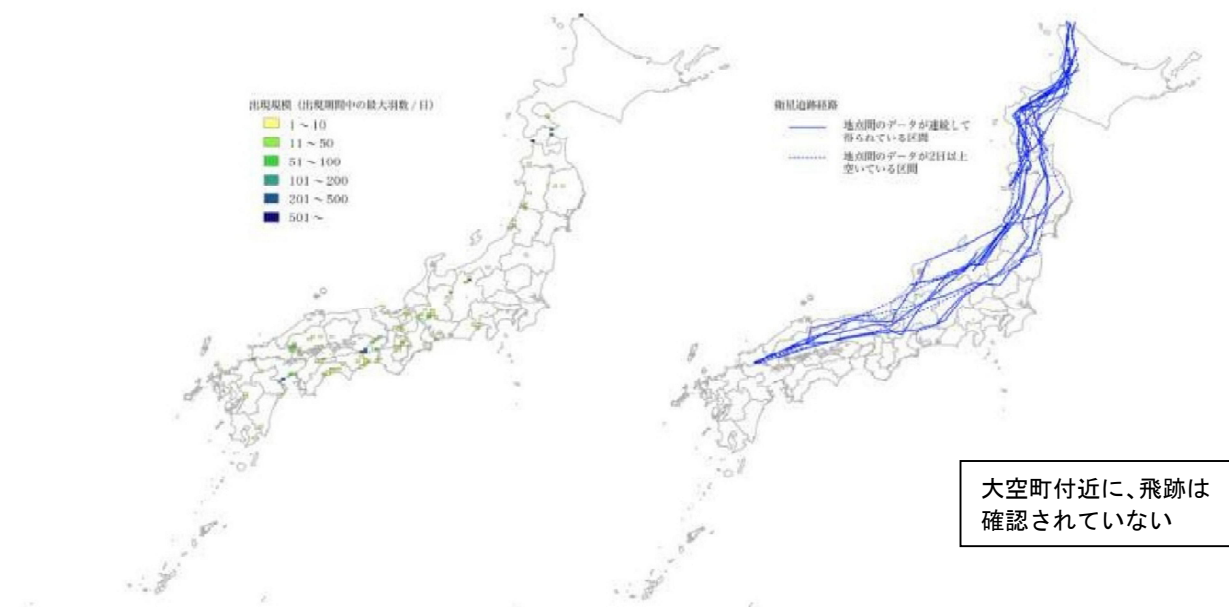
出典：環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」を基に作成
 ※) 衛星追跡経路図は 20 個体の結果に基づく

図 5-57 ハチクマの春季の渡り経路



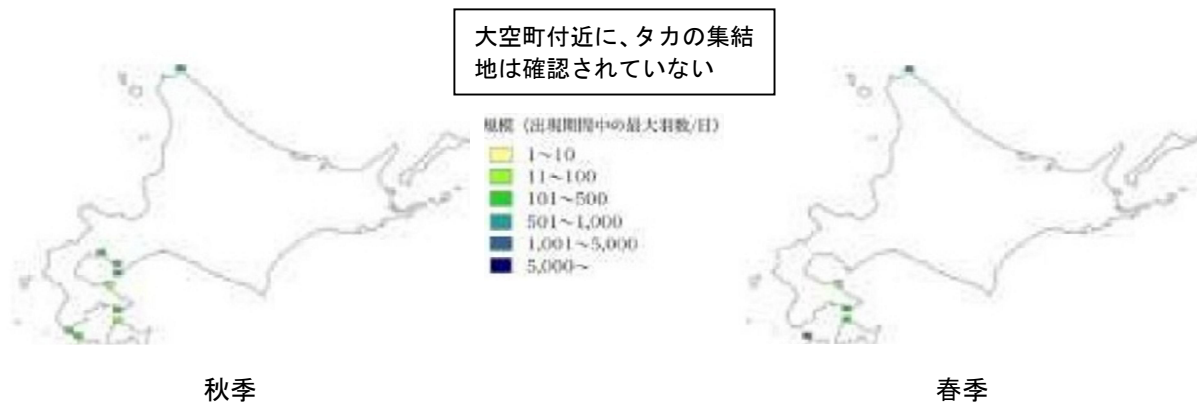
出典：環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」を基に作成
 ※) 衛星追跡経路図は 14 個体の結果に基づく

図 5-58 ノスリの秋季の渡り経路



出典：環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」を基に作成
 ※) 衛星追跡経路図は 14 個体の結果に基づく

図 5-59 ノスリの春季の渡り経路



出典：環境省「鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引き」を基に作成

図 5-60 タカ類の集結地

そのほか、環境省「平成 25 年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」には、資料調査及びガンカモ類・海ワシ類の生息状況に詳しい研究者等に対して行ったヒアリング結果、現地調査結果を整理し、渡りの経路を推定した図が掲載されている。ガンカモ類、海ワシ類の渡りの経路等は図 5-61～図 5-69 に示すとおりである。

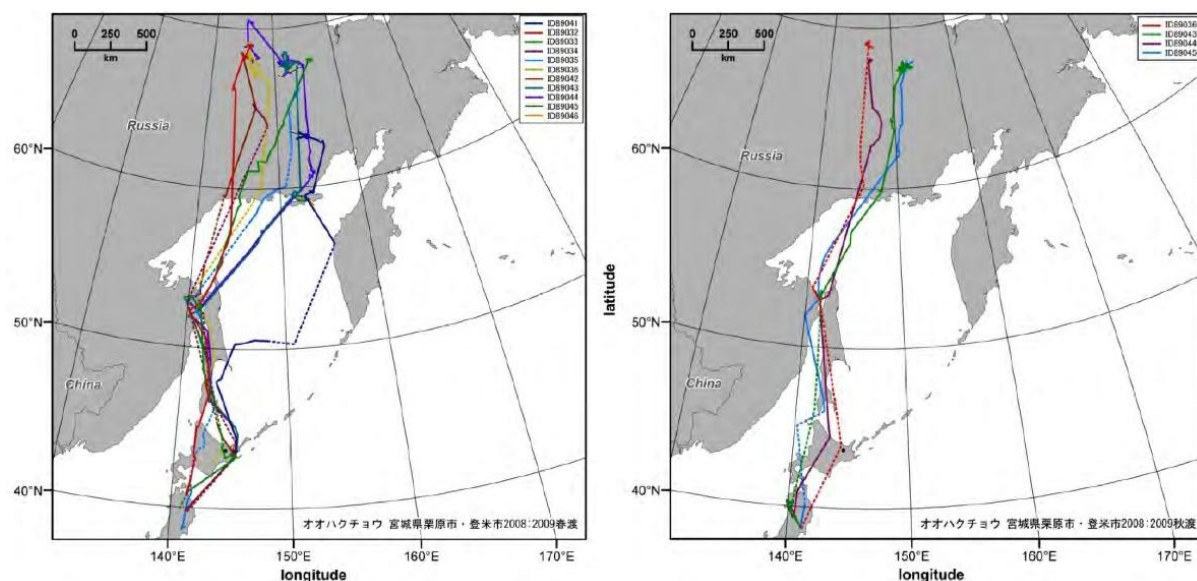
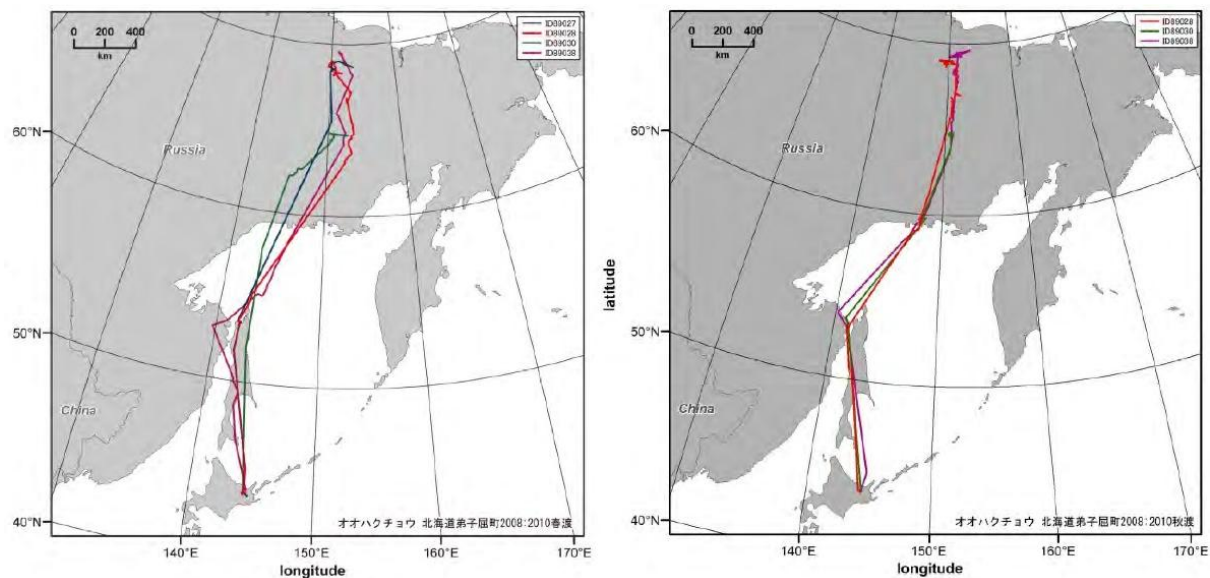


図 5-61 オオハクチョウの渡り経路（左：2009年春、右：2009年秋）

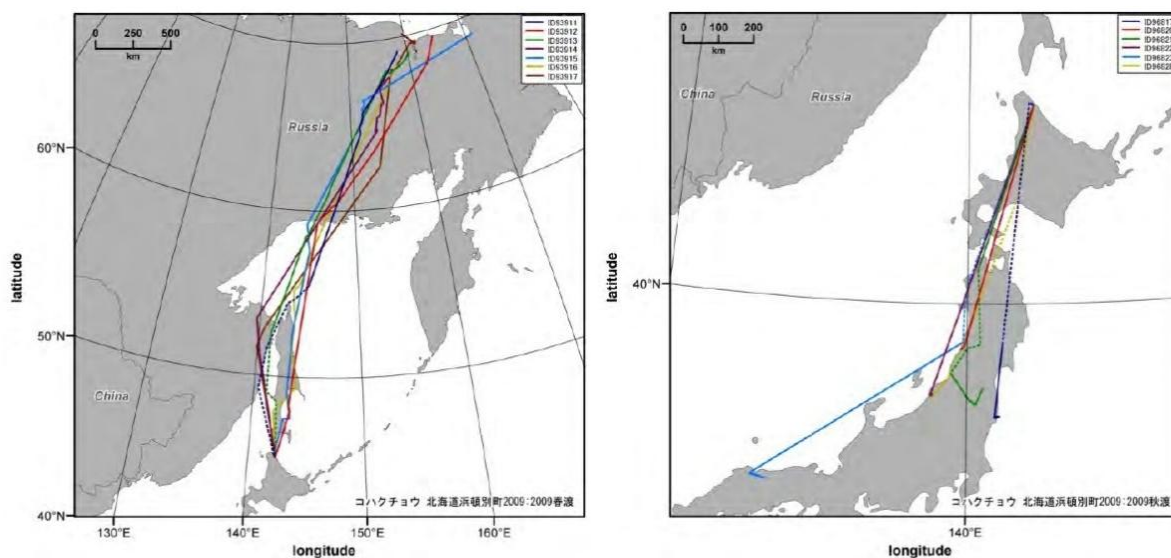


出典：環境省「平成 25 年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」

※) 2008 年度に北海道弟子屈町で送信機を装着した 4 個体（春）および 3 個体（秋）の記録である

※) 実線はロケーションクラス 0 以上の測位点、点線はロケーションクラス A, B の測位点をもとに作成されたものである

図 5-62 オオハクチョウの渡り経路（左：2010年春、右：2010年秋）

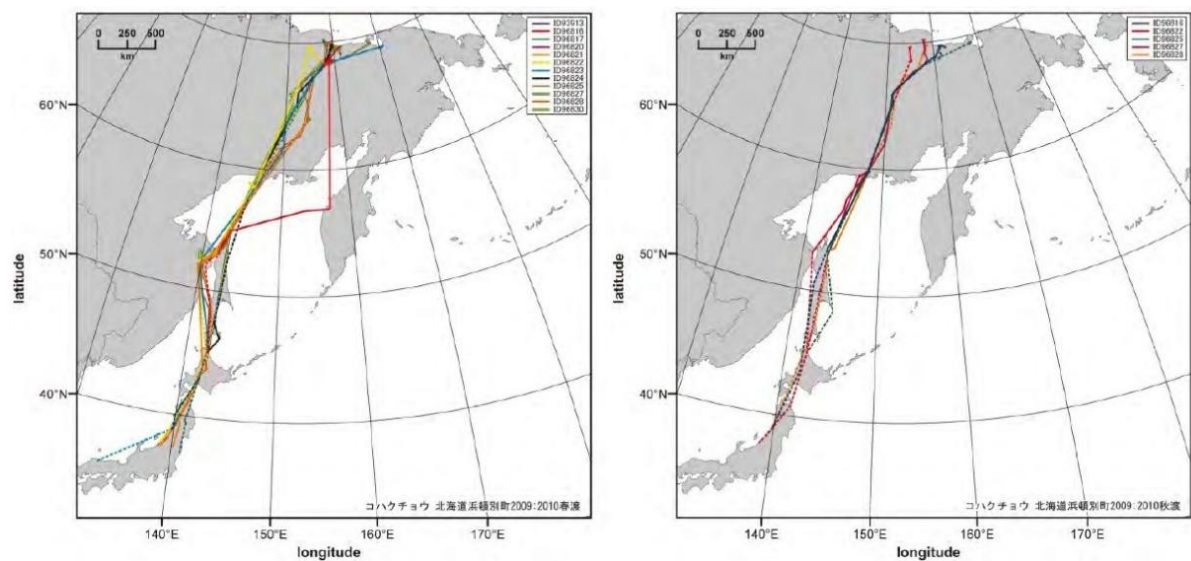


出典：環境省「平成 25 年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」

※) 2009 年度に北海道浜頓別町で送信機を装着した 7 個体（春）および 6 個体（秋）の記録である

※) 実線はロケーションクラス 0 以上の測位点、点線はロケーションクラス A, B の測位点をもとに作成されたものである

図 5-63 コハクチョウの渡り経路（左：2009 年春、右：2009 年秋）

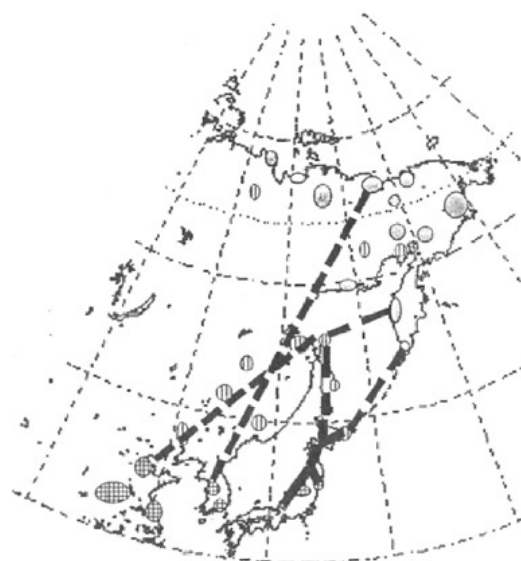


出典：環境省「平成 25 年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」

※) 2009 年度に北海道浜頓別町で送信機を装着した 12 個体（春）および 5 個体（秋）の記録である

※) 実線はロケーションクラス 0 以上の測位点、点線はロケーションクラス A, B の測位点をもとに作成されたものである

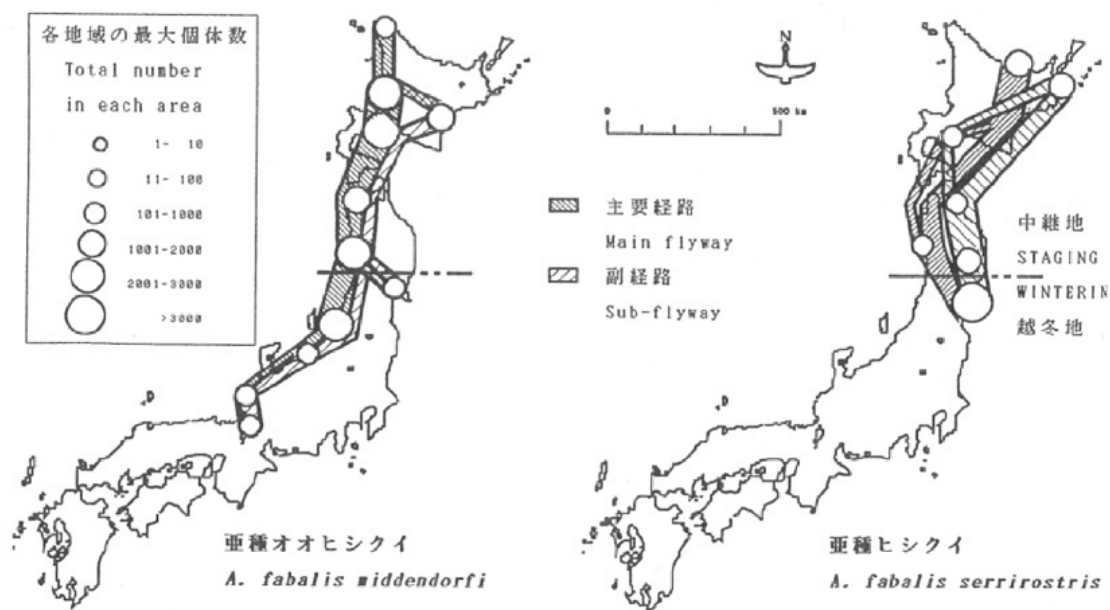
図 5-64 コハクチョウの渡り経路（左：2010年春、右：2010年秋）



ヒシクイ *Anser fabalis*

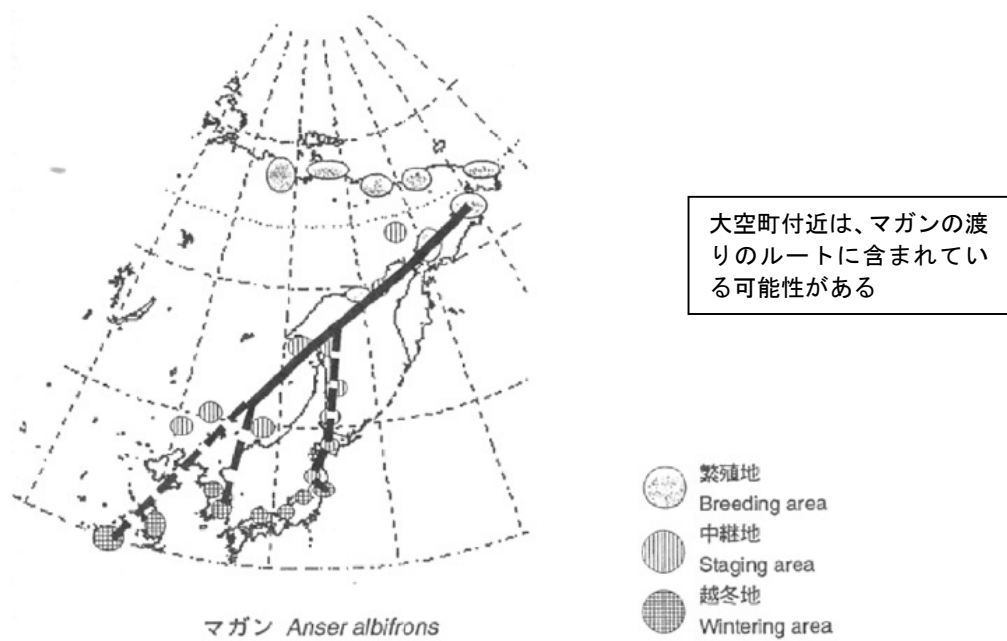
- 繁殖地
Breeding area
- 中継地
Staging area
- 越冬地
Wintering area

大空町付近は、亜種ヒシクイの渡りルートに含まれている可能性がある。



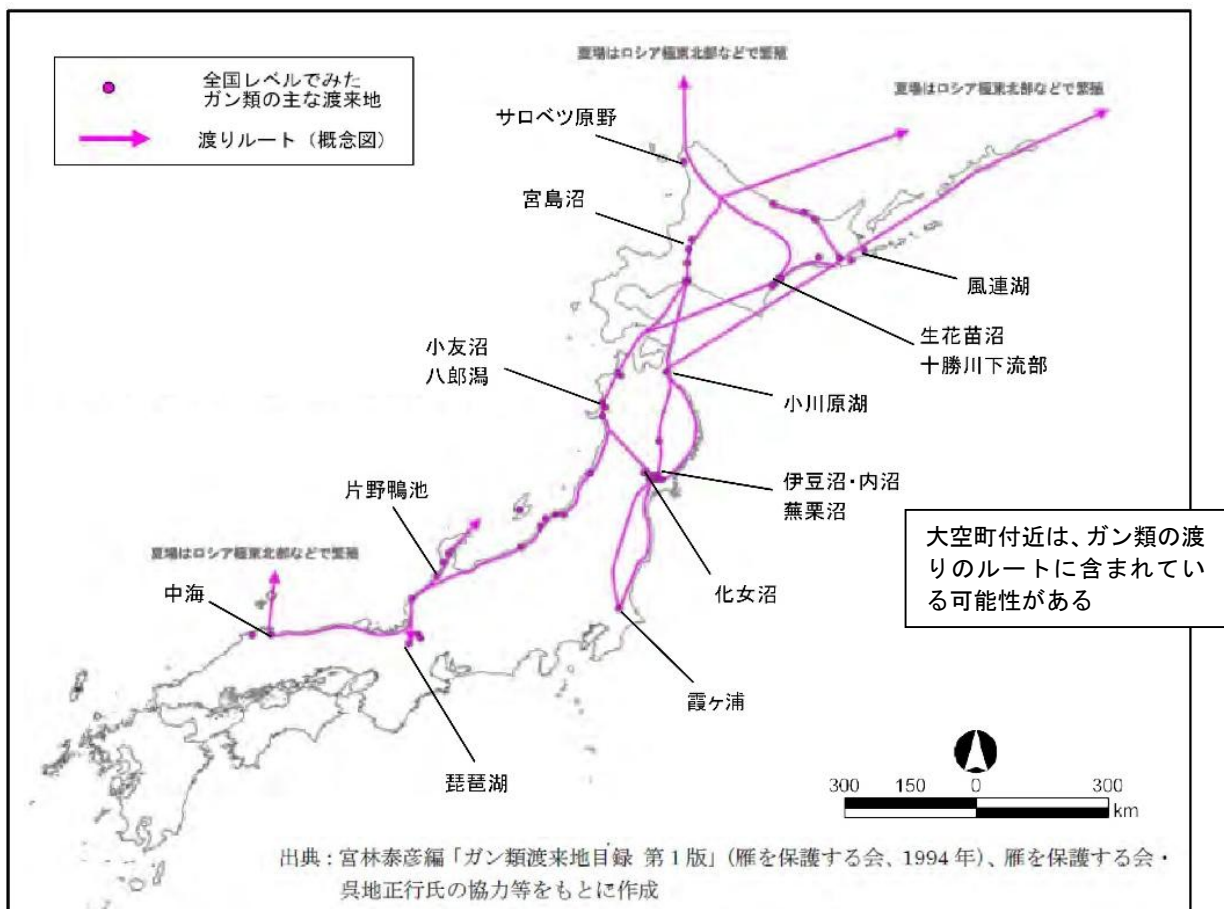
出典：環境省「平成25年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」を基に作成

図 5-65 標識調査から明らかになったヒシクイの渡り経路



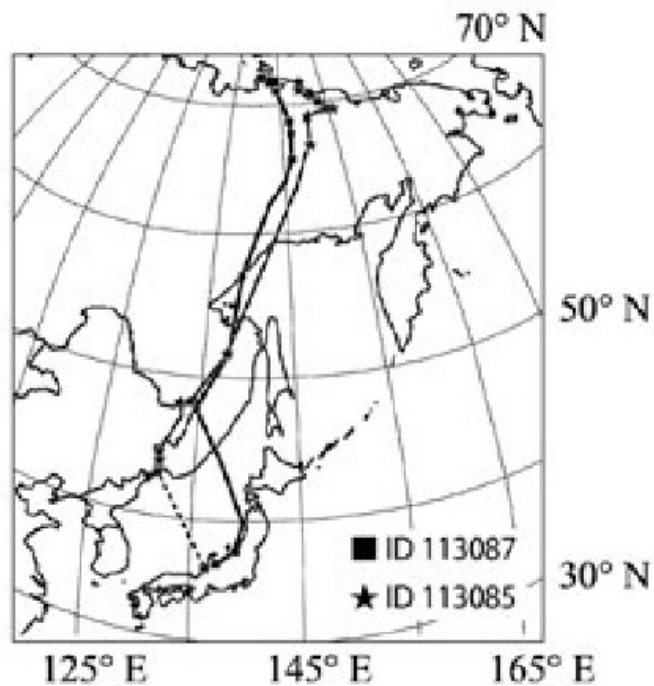
出典：環境省「平成25年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」を基に作成

図 5-66 標識調査から明らかになったマガンの渡り経路



出典：環境省「平成25年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」を基に作成

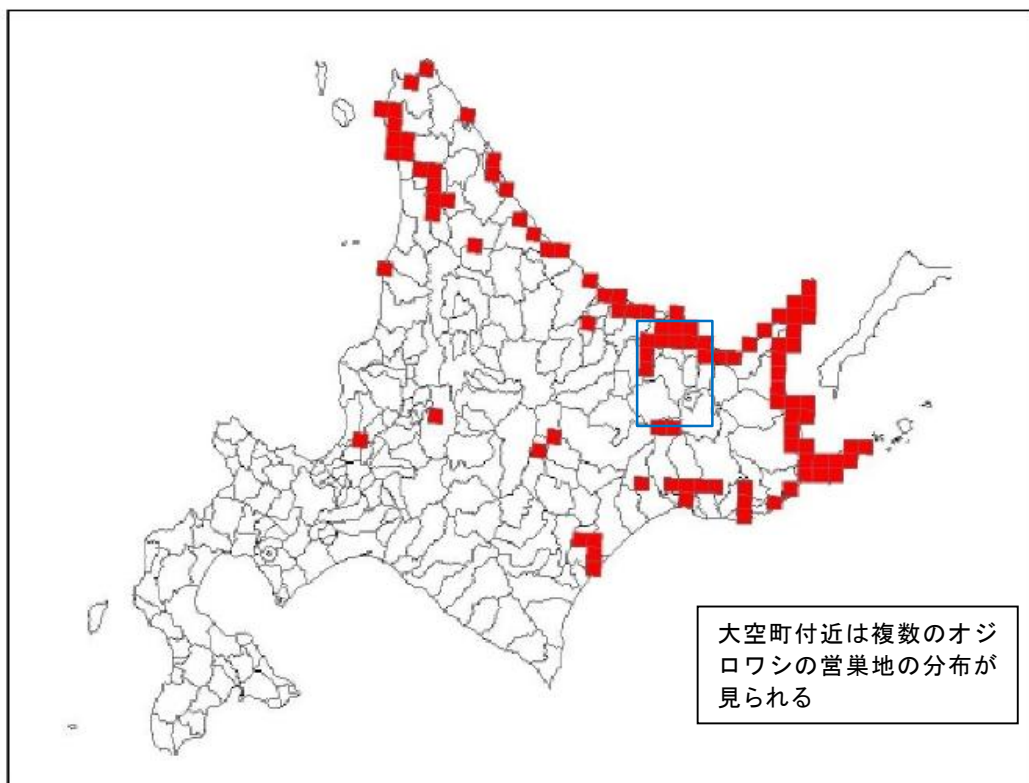
図 5-67 ガン類を指標種とした重要地域



大空町付近は、トモエガモの渡りのルートに含まれていない可能性がある

出典：環境省「平成25年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」を基に作成

図 5-68 衛星追跡調査から明らかになったトモエガモの渡り経路



大空町付近は複数のオジロワシの営巣地の分布が見られる

出典：環境省「平成25年度風力発電施設に係る渡り鳥・海ワシ類の情報整備委託業務報告書」を基に作成

※) 赤色は営巣地を1つ以上含む10km×10kmのメッシュを指す

※) 青色の四角は調査対象範囲のおおよその位置を指す

図 5-69 2008年の繁殖期に確認されたオジロワシの営巣地の分布

(3) 動物の重要な種

動物の重要な種は、表 5-19 に示した文献その他の資料で確認された種について、表 5-25 の選定基準に基づき選定した。その結果は表 5-26 に示すとおりであり、哺乳類 16 種、鳥類 16 種、爬虫類 2 種、両生類 0 種、魚類 20 種、昆虫類 418 種が確認されている。

表 5-25 動物の重要な種の選定基準

番号	資料名	カテゴリー
1	「文化財保護法」（昭和25年 法律第214号） 「北海道文化財保護条例」（昭和30年11月30日 条例第83号） 「大空町文化財保護条例」（平成22年6月16日 条例第24号）	国特：国の特別天然記念物 国天：国の天然記念物 道天：北海道の天然記念物 町天：大空町の天然記念物
2	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」（平成4年6月5日 法律第75号）	国際：国際希少野生動植物種 国内：国内希少野生動植物種 特一：特定第一種国内希少野生動植物種 特二：特定第二種国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
3	「北海道生物の多様性の保全等に関する条例」（平成25年3月29日 条例第9号）	指希：指定希少野生動植物種 特希：特定希少野生動植物種
4	環境省「環境省レッドリスト2020」	CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類 EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
5	北海道「北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック2001」 北海道「北海道レッドリスト【両生類・爬虫類編】改訂版（2015年）」 北海道「北海道レッドリスト【昆虫 チョウ目編】改訂版（2016年）」 北海道「北海道レッドリスト【哺乳類編】改訂版（2016年）」 北海道「北海道レッドリスト【鳥類編】改訂版（2017年）」 北海道「北海道レッドリスト【魚類編】改訂版（2018年）」 北海道「北海道レッドリスト【昆虫 コウチュウ目編】改訂版（2019年）」	Ex：絶滅種 Ew：野生絶滅種 Cr：絶滅危機種 En：絶滅危惧種 Vu：絶滅危急種 Nt：準絶滅危惧種 R：希少種 Lp：地域個体群 N：留意種 Dd：情報不足

a) 哺乳類

重要な哺乳類として、ノレンコウモリ、ムクゲネズミ、ヒグマ等が確認されている。

表 5-26 文献による動物の重要な種（哺乳類）

No.	目名	科名	和名	1	2	3	4	5
1	コウモリ目（翼手目）	ヒナコウモリ科	モモジロコウモリ					Nt
2			ドーベントンコウモリ					N
3			ノレンコウモリ				VU	Nt
4			クロオオブラコウモリ					Nt
5			ヒメヒナコウモリ				DD	Nt
6			ヒナコウモリ					Nt
7			チチブコウモリ					Nt
8			コテングコウモリ					N
9			テングコウモリ					Nt
10		オヒキコウモリ科	オヒキコウモリ				VU	Dd
11	ネズミ目（齧歯目）	リス科	シマリス（エゾシマリス）					Dd
12		ネズミ科	ムクゲネズミ					Nt
13			ハントウアカネズミ（カラフトアカネズミ）					N
14	ネコ目（食肉目）	クマ科	ヒグマ		国際			
15		イタチ科	クロテン（エゾクロテン）					Nt
16			ラッコ				CR	Nt
計	3 目	6 科	16 種	0 種	1 種	0 種	4 種	15 種

※1) 種名及び配列については原則として国土交通省「令和7年度 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」に準拠した。

※2) 選定基準は表 5-25 に示すとおりである。

b) 鳥類

重要な鳥類として、タンチョウ、オオワシ、シマアオジ等が確認されている。

表 5-27 文献による動物の重要な種（鳥類）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5
1	カモ目	カモ科	シジュウカラガン		国内		CR	Vu
2			オシドリ				DD	Nt
3	キジ目	キジ科	エゾライチョウ				DD	Nt
4	ツル目	ツル科	タンチョウ		国内		VU	Vu
5	チドリ目	シギ科	ヤマシギ					N
6			オオジシギ				NT	Nt
7	タカ目	タカ科	クマタカ		国内		EN	En
8			ハイタカ				NT	Nt
9			チュウヒ		国内		EN	En
10			オオワシ	天然	国内		VU	Vu
11			オジロワシ	天然	国内、国際		VU	Vu
12	キツツキ目	キツツキ科	コアカゲラ					Dd
13			クマゲラ	天然			VU	Vu
14	スズメ目	モズ科	アカモズ		国内		EN	En
15		センニュウ科	マキノセンニュウ				NT	Nt
16		ホオジロ科	ホオアカ					Nt
17			シマアオジ		国内		CR	Cr
計	7 目	9 科	17 種	3 種	8 種	0 種	14 種	17 種

※1) 種名及び配列については原則として日本鳥学会「日本産鳥類目録第8版」に準拠した。

※2) 選定基準は表 5-25 に示すとおりである。

c) 爬虫類

重要な爬虫類として、ニホンカナヘビ、ジムグリが確認されている。

表 5-28 文献による動物の重要な種（爬虫類）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5
1	有鱗目	カナヘビ科	ニホンカナヘビ					Lp
2		ナミヘビ科	ジムグリ					Dd
計	1 目	2 科	2 種	0 種	0 種	0 種	0 種	2 種

※1) 種名及び配列については原則として国土交通省「令和7年度 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」に準拠した。

※2) 選定基準は表 5-25 に示すとおりである。

d) 両生類

重要な両生類は確認されなかった。

e) 魚類

重要な魚類として、カワヤツメ、エゾホトケノドジョウ、ミヤベイワナ等が確認されている。

表 5-29 文献による動物の重要な種（魚類）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5
1	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	カワヤツメ				VU	Nt
2	チョウザメ目	チョウザメ科	チョウザメ				EX	Ex
3	コイ目	コイ科	網走湖のヒブナ個体群					Lp
4			ヤチウグイ				NT	Nt
5			マルタ					N
6			マルタ					N
7			エゾウグイ					N
8		ドジョウ科	ドジョウ				NT	
9		フクドジョウ科	エゾホトケドジョウ				EN	En
10	サケ目	シラウオ科	シラウオ					Vu
11		サケ科	ミヤベイワナ				VU	Nt
12			サクラマス					N
13			サクラマス					N
14			サクラマス（ヤマメ）				NT	
15	トゲウオ目	トゲウオ科	イトヨ					N
16			イトヨ					N
17	スズキ目	カジカ科	ハナカジカ					N
18		ハゼ科	アカオビシマハゼ					Nt
19			ルリヨシノボリ					Nt
20			ジュズカケハゼ				NT	
計	6 目	10 科	20 種	0 種	0 種	0 種	8 種	17 種

※1) 種名及び配列については原則として国土交通省「令和7年度 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」に準拠した。

※2) 選定基準は表 5-25 に示すとおりである。

f) 昆虫類

重要な昆虫類として、タガメ、ヒメチャマダラセセリ、ゲンゴロウ等、14 目 105 科 4,118 種が確認されている。

表 5-30 文献による動物の重要な種（昆虫類）（1/8）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5
1	トンボ目（蜻蛉目）	アオイトトンボ科	ホソミオツネトンボ					En
2			オオアオイトトンボ					R
3		イトトンボ科	カラフトイトトンボ				VU	Vu
4			アカメイトトンボ				CR	Vu
5			マンシュウイトトンボ					R
6			カラカネイトトンボ					R
7			セスジイトトンボ					R
8			オオイトトンボ					R
9		ムカシトンボ科	ムカシトンボ					N
10		ヤンマ科	アオヤンマ				NT	Vu
11			マダラヤンマ				NT	R
12			イイジマルリボシヤンマ				NT	R
13			コシボソヤンマ					R
14			ミルンヤンマ					R
15			サラサヤンマ					R
16		エゾトンボ科	クモマエゾトンボ					R
17			ハネヒロエゾトンボ				VU	R
18		トンボ科	コフキトンボ					R
19			エゾカオジロトンボ				NT	Vu
20			ハラヒロトンボ					En
21			ナツアカネ					R
22			エゾアカネ				EN	R
23			マイコアカネ					R
24			ヒメアカネ					R
25			ヒメリスアカネ					R
26	カワゲラ目（セキ翅目）	トワダカワゲラ科	フタカギトワダカワゲラ					R
27			ヨツカギトワダカワゲラ					R
28	バッタ目（直翅目）	カマドウマ科	トウホクヒラタクチキウマ					R
29			ヒダカヒラタクチキウマ					R
30		キリギリス科	カラフトキリギリス					R
31		コオロギ科	ハラオカメコオロギ					R
32			ツツレサセコオロギ					R
33		イナゴ科	ハヤチネフキバッタ					R
34			ダイセツタカネフキバッタ					R
35	ガロアムシ目	ガロアムシ科	エゾガロアムシ					R
36	ナナフシ目（竹節虫目）	ナナフシ科	ヤスマツトビナナフシ					R
37	カメムシ目（半翅目）	コガシラウンカ科	<i>Cixidia okunii</i>					R
38		ウンカ科	サッポロウンカ					R
39			フタスジオウンカ					R
40			オゼウンカ					R
41			ナガウンカ					R
42		マルウンカ科	キタアカジマウンカ					R
43		セミ科	和琴半島のミンミンゼミ個体群					Lp
44			チッチゼミ					R
45			ヒグラシ					R
46		ツノゼミ科	マルツノゼミ					R
47		アワフキムシ科	トドマツアワフキ					R
48		ヨコバイ科	<i>Anoscopus flavostriatus</i>					R
49			ヒロオビフトヨコバイ					R
50			<i>Diplocorenus evansi</i>					R
51			<i>Empoa albifascia</i>					R
52			トビイロズキンヨコバイ					R
53			<i>Limotettix adipatus</i>					R

表 5-31 文献による動物の重要な種（昆虫類）（2/8）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5
54	カメムシ目（半翅目）	ヨコバイ科	ホシハトムネヨコバイ					R
55			ヒシウスバヨコバイ					R
56			オオイナズマヨコバイ					R
57			チシマキヒロヒメヨコバイ					R
58			ヨシヨコバイ					R
59			オオクロヒラタヨコバイ					R
60			<i>Pithytettix kerzhneri</i>					R
61			<i>Psammotettix maritimus</i>					R
62		グンバイムシ科	ヒラシママルグンバイ					R
63		ハナカメムシ科	オオクロハナカメムシ					R
64		カスミカメムシ科	ムモンナガカスミカメ					R
65			クロスジコアオカスミカメ					R
66			ダルマカメムシ					Vu
67			ハイマツトビカスミカメ					R
68		マキバサシガメ科	ツマグロマキバサシガメ				NT	N
69		アメンボ科	エサキアメンボ				NT	R
70			ババアメンボ				NT	N
71		ミズギワカメムシ科	ヒメミズギワカメムシ				NT	R
72			オオミズギワカメムシ					R
73			ヒラタミズギワカメムシ					N
74		コオイムシ科	オオコオイムシ					R
75			タガメ		国内特二		VU	Cr
76		アブラムシ科	<i>Hemipodaphis persimilis</i>					En
77		キジラミ科	エゾイソツツジキジラミ					R
78			ミヤマヤナギキジラミ					R
79		タデキジラミ科	ウラジロタデキジラミ					R
80		ネツタイキジラミ科	ヒダカキジラミ					R
81		フタガタカメムシ科	キタフタガタカメムシ					R
82	アミメカゲロウ目（脈翅目）	センブリ科	ウスバセンブリ					R
83		ヒロバカゲロウ科	ブライヤーヒロバカゲロウ					R
84			マダラウスバカゲロウ					R
85		ウスバカゲロウ科	オオウスバカゲロウ					R
86			キチジョウクサカゲロウ					R
87		クサカゲロウ科	モンクサカゲロウ					R
88			ナナホシクサカゲロウ					R
89			セボシクサカゲロウ					R
90			クビカクシヒメカゲロウ					R
91		ヒメカゲロウ科	フジモトヒメカゲロウ					R
92			ムモンヒメカゲロウ					R
93			サザナミヒメカゲロウ					R
94			<i>Hemerobius subfalcatus</i>					R
95			<i>Hemerobius tateyamai</i>					R
96			<i>Neuronema kuwayamai</i>					R
97			<i>Wesmaelius ogatai</i>					R
98		シリアゲムシ目（長翅目）	ユキシリアゲムシ科	エゾユキシリアゲ				R
99	トビケラ目（毛翅目）	キブネクダトビケラ科	キブネクダトビケラ					R
100		カメノコヒメトビケラ科	マガリカメノコヒメトビケラ					R
101			カメノコヒメトビケラ					R
102		コエグリトビケラ科	カンムリイズミコエグリトビケラ					R
103			キタコエグリトビケラ					R
104			チシマコエグリトビケラ					R
105		カクツツトビケラ科	ツノカクツツトビケラ					Vu
106		ヒゲナガトビケラ科	ギンボシツツトビケラ				NT	R
107		エグリトビケラ科	オツネントビケラ					R
108			ユキエグリトビケラ					R
109		ホソバトビケラ科	イトウホソバトビケラ					R
110		トビケラ科	タイリクウンモントビケラ					R
111			ヒメアミメトビケラ					R
112			ゴマフトビケラ					R
113			カラフトゴマフトビケラ					R

表 5-32 文献による動物の重要な種（昆虫類）（3/8）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5
114	チョウ目（鱗翅目）	セセリチョウ科	ギンイチモンジセセリ				NT	Dd
115			チャマダラセセリ				EN	
116			ヒメチャマダラセセリ	天然	国内		CR	Cr
117			スジグロチャバネセセリ北海道・本州・九州亜種				NT	Nt
118		シジミチョウ科	リンゴシジミ					N
119			カバイロシジミ				NT	
120			キタアカシジミ北日本亜種					N
121			オオゴマシジミ				NT	Dd
122			ゴマシジミ北海道・東北亜種					N
123			アサマシジミ北海道亜種		国内		CR	En
124			カラフトルリシジミ	天然		指希	NT	N
125		タテハチョウ科	ウラギンスジヒョウモン				VU	
126			ヒョウモンチョウ東北以北亜種					Dd
127			アサヒヒョウモン	天然		指希	NT	N
128			カラフトヒョウモン				NT	
129			クモバネヒカゲ北海道亜種				NT	N
130			ゴマダラチョウ本土亜種					N
131			キマダラモドキ				NT	N
132			ツマジロウラジャノメ北海道亜種					N
133			オオイチモンジ				VU	N
134			ダイセツタカネヒカゲ	天然		指希	NT	N
135			オオムラサキ				NT	N
136		アゲハチョウ科	ヒメギフチョウ北海道亜種				NT	R
137			ウスバキチョウ	天然		指希	NT	N
138		シロチョウ科	ヒメシロチョウ北海道・本州亜種					Vu
139		セセリモドキガ科	ニホンセセリモドキ					Nt
140		シャクガ科	コウノエダシャク					Nt
141			シロテンサザナミナミシャク					Nt
142			アルプスカバナミシャク					Nt
143			ダイセツタカネエダシャク					Nt
144			クロモンミヤマナミシャク					Nt
145			タカネナミシャク					Nt
146		ヒトリガ科	ダイセツヒトリ				NT	Nt
147		ドクガ科	ダイセツドクガ					Nt
148		ヤガ科	エゾサクラケンモン					R
149			キタノハマヨトウ					Nt
150			ダイセツキシタヨトウ				NT	Nt
151			ヒダカミツボシキリガ				NT	Nt
152			コグレヨトウ					Nt
153			オーロラヨトウ					Nt
154			シベチャキリガ					Nt
155			ウスアオヨトウ					Vu
156			キタミモンヤガ					Nt
157			エゾクシヒゲモンヤガ				VU	Nt
158			ワイギンモンウワバ					R
159			クロダケタカネヨトウ				NT	Nt
160		ハマキガ科	ミヤマキハマキ					Nt
161			ダイセツチビハマキ					Nt
162			ハイマツコヒメハマキ					Nt
163			コシモフリヒメハマキ					Nt
164		ホソハマキガ科	ダイセツホソハマキ					Nt
165	ハエ目（双翅目）	カ科	トワダオオカ					R
166		ハナアブ科	フタオビアリノスアブ					R
167			ジョウザンナガハナアブ					R
168		クロバエ科	クモオオクロバエ					R
169			タカネクロバエ					R
170			エゾクロバエ					R
171			ホクリクコフキクロバエ					R
172			トリキンバエ					R
173			マルヤマトリキンバエ					R
174			ヤドリトリキンバエ					R

表 5-33 文献による動物の重要な種（昆虫類）（4/8）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5
175	ハエ目（双翅目）	イエバエ科	マグソチビフンバエ					R
176			エゾマグソイエバエ					R
177			クロマルハナバエ					R
178			タテヤマミドリイエバエ					R
179			ハイイロトゲアシメマトイ					R
180			ダイセツトゲアシメマトイ					R
181			クマゲラトゲアシメマトイ					R
182			エゾカトリバエ					R
183			キバネクロバエ					R
184			コシアキトゲアシエバエ					R
185			コクロイエバエ					R
186			キイロミヤマイエバエ					R
187			ミチタニミヤマイエバエ					R
188		ニクバエ科	ヤチニクバエ					R
189			カスミニクバエ					R
190			Blaesoxipha (Blaesoxipha) takanoi					R
191			ハナバチノスヤチニクバエ					R
192			ハチノスヤドリニクバエ					R
193			エゾハチノスヤドリニクバエ					R
194			ヤドリニクバエ					R
195			ゼニゴギンガクニクバエ					R
196			チビクロニクバエ					R
197			ビーソンニクバエ					R
198			シロガネニクバエ					R
199			メツゲルニクバエ					R
200			エダガタニクバエ					R
201			キタシリアカニクバエ					R
202		ヒフバエ科	ナキウサギヒフバエ					R
203		マガリスネカ科	クロマガリスネカ					R
204		ヤドリバエ科	ダマスターヤドリハナバエ					R
205	コウチュウ目（鞘翅目）	オサムシ科	マツマエメクラチビゴミムシ					Dd
206			カククミメクラチビゴミムシ					Dd
207			ヒダカマルガタゴミムシ					Nt
208			リシリマルガタゴミムシ					Nt
209			エゾメダカチビカワゴミムシ					Nt
210			テンリュウメダカチビカワゴミムシ					Nt
211			セスジカタキバゴミムシ					Nt
212			シモヤマミズギワゴミムシ					Nt
213			ウメヤルリミズギワゴミムシ					Nt
214			アナバネゴミムシ					Nt
215			ユウバリメクラミズギワゴミムシ					Dd
216			カリバメクラミズギワゴミムシ					Dd
217			クマガイクロアオゴミムシ				NT	Nt
218			エゾアオゴミムシ					Nt
219			オオキバナガミズギワゴミムシ				VU	En
220			キバナガミズギワゴミムシ					Nt
221			コヒメヒョウタンゴミムシ					Nt
222			モリキバネホソアトキリゴミムシ					Nt
223			カリバチビゴミムシ					Dd
224			ムイネチビゴミムシ					Dd
225			カククミチビゴミムシ					Dd
226			センゲンチビゴミムシ					Dd
227			ユウバリチビゴミムシ					Dd
228			ヒダカチビゴミムシ					Dd
229			エゾヒサゴミムシ					Nt
230			ダイセツマルクビゴミムシ					Nt
231			キタマルクビゴミムシ					Nt
232			コルリマルクビゴミムシ					Nt
233			キベリマルクビゴミムシ				EN	Dd
234			ルリマルクビゴミムシ					Nt

表 5-34 文献による動物の重要な種（昆虫類）（5/8）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5
235	コウチュウ目（鞘翅目）	オサムシ科	ヒメミヤマメダカゴミムシ					Nt
236			オシマメクラチビゴミムシ					Dd
237			ドウイロハマベゴミムシ				NT	En
238			ニッポンヒメナガゴミムシ					Nt
239			アラメナガゴミムシ					Nt
240			ヒダカメクラチビゴミムシ					Dd
241			ナカヒダカメクラチビゴミムシ					Dd
242			ユウバリメクラチビゴミムシ					Dd
243			ズンドウメクラチビゴミムシ					Dd
244			ベテガリメクラチビゴミムシ					Dd
245			ラッコメクラチビゴミムシ					Dd
246			ワタナベメクラチビゴミムシ					Dd
247			アトスジチビゴミムシ					Dd
248			サイハチチビゴミムシ					Dd
249			ショカンベツチビゴミムシ					Dd
250			リシリチビゴミムシ					Dd
251			マツモトチビゴミムシ					Dd
252			スガチビゴミムシ					Dd
253		ハンミョウ科	カワラハンミョウ				EN	Vu
254			アイヌハンミョウ				NT	Vu
255			ホソハンミョウ				VU	Nt
256			マガタハンミョウ					Dd
257		ゲンゴロウ科	ダイセツマゲンゴロウ					Nt
258			Agabus japonicus ezo					Dd
259			キボシケシゲンゴロウ				DD	Nt
260			エゾヒラタヒメゲンゴロウ					Nt
261			ゲンゴロウ		国内 特二		VU	Nt
262			エゾゲンゴロウモドキ		国内 特二		VU	N
263			ハイイロゲンゴロウ					R
264			マルガタゲンゴロウ		国内 特二		VU	
265			カラフトマルガタゲンゴロウ				NT	Nt
266			シマゲンゴロウ				NT	Nt
267			アンガスナガケシゲンゴロウ					Nt
268			サロベツナガケシゲンゴロウ					Nt
269			ワタナベナガケシゲンゴロウ					Nt
270			ラウスナガケシゲンゴロウ					Nt
271			キタマダラチビゲンゴロウ					Nt
272			アラメケシゲンゴロウ				NT	Nt
273			キベリクロヒメゲンゴロウ				NT	
274			オオクロマメゲンゴロウ					Nt
275			キボシツブゲンゴロウ				NT	Nt
276			キタヒメゲンゴロウ					Nt
277		ミズスマシ科	コミズスマシ				EN	Dd
278			ミズスマシ				VU	Nt
279			エゾコオナガミズスマシ				NT	Nt
280		コガシラミズムシ科	マダラコガシラミズムシ				VU	Nt
281			チビコガシラミズムシ					Nt
282		コツブゲンゴロウ科	ヒゲトコツブゲンゴロウ					Nt
283		マルドロムシ科	マルドロムシ					R
284			シワムネマルドロムシ					Nt
285		ダルマガムシ科	セスジダルマガムシ					Nt
286		ガムシ科	エゾコガムシ				NT	N
287		エンマムシ科	チュウジョウチビエンマムシ					R
288			アカアリヅカエンマムシ					R
289			クロアリヅカエンマムシ					R
290			ヒラタエンマムシ					R
291			ヒラタカクヒメエンマムシ					R

表 5-35 文献による動物の重要な種（昆虫類）（6/8）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5
292	コウチュウ目（鞘翅目）	エンマムシ科	ヘリテンエンマムシ					R
293			アリクイエンマムシ					R
294			ノッポロヒメエンマムシ					R
295			ホソエンマムシ					R
296			ツノブトホソエンマムシ					R
297			ヒメホソエンマムシ					R
298			キノコアカマルエンマムシ					Nt
299		エンマムシダマシ科	エンマムシダマシ					Nt
300		タマキノコムシ科	ダイセツチビシデムシ					Nt
301			ヤスダチビシデムシ					Nt
302		ハネカクシ科	ホテイウミハネカクシ				DD	Nt
303		マルハナノミ科	オビモンマルハナノミ					Nt
304		クワガタムシ科	オオクワガタ				VU	Nt
305		コガネムシ科	ダイセツマグソコガネ				NT	Nt
306			キタミヤママグソコガネ					Nt
307			ダイコクコガネ				VU	Nt
308			オオヒラタハナムグリ					Nt
309			チャバネエンマコガネ				VU	Vu
310			アラメエンマコガネ				NT	N
311			ヨツバコガネ					Nt
312			キタアラメニセマグソコガネ					Nt
313		コブスジコガネ科	マルコブスジコガネ				NT	Dd
314		マルトゲムシ科	エカシマルトゲムシ					R
315			カラフトマルトゲムシ					Nt
316			マルモンマルトゲムシ					Nt
317			キタサシゲマルトゲムシ					Nt
318		ドロムシ科	ハセガワドロムシ					Nt
319		タマムシ科	エゾアオタマムシ					Dd
320		コメツキムシ科	シロウズベニコメツキ					Nt
321			ヒゲナガダシダラコメツキ					Nt
322			コニシニセヒラタコメツキ					Nt
323			コロボックルヒサゴコメツキ					Nt
324			レブンチビヒサゴコメツキ					Nt
325			エゾクロクシコメツキ					Nt
326			ホソツヤミズギワコメツキ					Nt
327			サロベツツヤミズギワコメツキ					Nt
328			エゾクシヒゲヒラタコメツキ					Nt
329			アラコガネコメツキ					Nt
330		ジョウカイボン科	クロヒゲナガジョウカイ					Nt
331			セボシジョウカイ					R
332			タカネクロクビボソジョウカイ					Nt
333		ベニボタル科	オオツヤバネベニボタル					Nt
334			<i>Dictyoptera sapporoensis</i>					Nt
335			ヴァンダイクホソベニボタル					Nt
336			ベニボタル					R
337		ホタルモドキ科	ホソホタルモドキ					Nt
338		シバンムシ科	ホソナガシバンムシ					Nt
339		カミキリムシ科	ケマダラカミキリ					N
340			フサヒゲリカミキリ		国内		GR	Dd
341			チャバネクロツツカミキリ					R
342			ヨコグロハナカミキリ					Nt
343			クロリハナカミキリ					Nt
344			ジャコウカミキリ					R
345			ミドリヒラタカミキリ					Nt
346			ムツボシアオコトラカミキリ					Nt
347			キョクトウトラカミキリ					Nt
348			エトロフハナカミキリ					Nt
349			コボトケヒゲナガコバネカミキリ					R
350			エゾカミキリ					Nt
351			カラフトヨツスジハナカミキリ					Nt

表 5-36 文献による動物の重要な種（昆虫類）（7/8）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5
352	コウチュウ目（鞘翅目）	カミキリムシ科	オニホソコバネカミキリ					R
353			アイヌホソコバネカミキリ					Nt
354			ヒゲジロホソコバネカミキリ					Nt
355			エゾスミイロハナカミキリ					Nt
356			キクスイカミキリ					R
357			キボシマダラカミキリ					Nt
358			ビヤクシンカミキリ					R
359			カッコウメダカカミキリ					R
360			タカオメダカカミキリ					R
361			オクエゾトラカミキリ					Nt
362			ムネモンチャイロトラカミキリ					Nt
363			クワヤマトラカミキリ					Nt
364		ハムシ科	キアシツブノミハムシ					R
365			カワカミハムシ					Nt
366			ミヤマヨモギハムシ					R
367			サメハダヨモギハムシ					Nt
368			クロルリハムシ					Nt
369			ルリドロノキハムシ					Nt
370			ツマキクロツツハムシ					Nt
371			ハコネチビツツハムシ					Nt
372			カラフトツツハムシ					Nt
373			ニセセジツツハムシ					Nt
374			ヒナノウスツボアシナガトビハムシ					Nt
375			タツナミソウアシナガトビハムシ					Nt
376			アオバアシナガハムシ					Nt
377			ヒラシマミズクサハムシ					Nt
378			キスジホソハムシ					Nt
379			ミソハギハムシ					Nt
380			コニシケブカハムシ					Nt
381			クロホシモモブトハムシ					R
382			アオグロモモブトハムシ					Nt
383			ムナキモモブトハムシ					R
384		ヒゲナガゾウムシ科	チャマダラヒゲナガゾウムシ					Nt
385			シロオビクチボソヒゲナガゾウムシ					Nt
386			シリジロヒゲナガゾウムシ					Nt
387			キスジヒゲナガゾウムシ					Nt
388			エグリバネヒゲナガゾウムシ					Nt
389			エゾシロモンヒゲナガゾウムシ					Nt
390			マダラフトヒゲナガゾウムシ					R
391			シロモンヒゲナガゾウムシ					Nt
392			ツツケナガヒゲナガゾウムシ					Nt
393			ナガアシヒゲナガゾウムシ					R
394			シロマダラネブトヒゲナガゾウムシ					Nt
395			シロヒゲナガゾウムシ					R
396			オオマダラヒゲナガゾウムシ					Nt
397		ゾウムシ科	シラクモアナアキゾウムシ					Nt
398			オナガカツゾウムシ					Nt
399			ヌタッカゾウムシ					Nt
400	ハチ目（膜翅目）	ヒラタハバチ科	<i>Pamphilus leucocephalus</i>					R
401		コンボウハバチ科	ウスキモモブトハバチ					R
402		アリ科	ケブカクロオオアリ					R
403			ツヤクシケアリ					R
404			アミメアリ					R
405			ノコギリハリアリ					R
406			ヒラフシアリ					R
407			カドムネボソアリ					R
408		スズメバチ科	エゾオオスジドロバチ					R
409			チャイロスズメバチ					R
410		ギンゲチバチ科	クラゲギンゲチ					R
411			フタモントゲアナバチ					R

表 5-37 文献による動物の重要な種（昆虫類）（8/8）

No.	目名	科名	種名	1	2	3	4	5
412	ハチ目（膜翅目）	ドロバチモドキ科	ニッポンハナダカバチ				VU	N
413		ミツバチ科	ノサップマルハナバチ				NT	R
414			キムネクマバチ					R
415		ケアシハナバチ科	ツヤクサレダマバチ					R
416			シロアシクサレダマバチ					R
417		セダカヤセバチ科	キンケセダカヤセバチ					R
418		ナギナタハバチ科	オナガナギナタハバチ					R
計	14 目	105 科	418 種	5 種	7 種	4 種	68 種	412 種

※1) 種名及び配列については原則として国土交通省「令和7年度 河川水辺の国勢調査のための生物リスト」に準拠した。

※2) 選定基準は本文中に示すとおりである。

(4) 注目すべき生息地

注目すべき生息地の選定基準は、表 5-38～表 5-40 に示すとおりとした。

表 5-38 動物の注目すべき生息地の選定基準 (1/3)

番号	選定基準	カテゴリー
1	「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号) 「北海道文化財保護条例」(昭和30年11月30日 条例第83号) 「大空町文化財保護条例」(平成22年6月16日 条例第24号)	国特：国の特別天然記念物 国天：国の天然記念物 道天：北海道の天然記念物 町天：大空町の天然記念物
2	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（種の保存法）」	生息：生息地等保護区
3	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約）」 (昭和55年10月17日条約第28号) 環境省「国際的に重要な湿地の基準（2025年閲覧）」	基準1：適切な生物地理区における「自然状態の」又は「自然状態に近い」代表的、希少又は特有な湿地タイプを含む湿地 基準2：危急種、絶滅危惧種又は近絶滅種、又は絶滅のおそれのある生態学的群集を支えている湿地 基準3：特定の生物地理区における生物多様性の維持に重要な動植物種を支えている湿地 基準4：動植物種の生活環の重要な段階を支えている湿地。又は悪条件下において動植物種に避難場所を提供している湿地 基準5：2万羽以上の水鳥を定期的に支えている湿地 基準6：水鳥の一種または一亜種の一個体群の個体数の1%を定期的に支えている湿地 基準7：湿地の恩恵や価値を代表する固有な魚類の亜種、種、又は科、生活史の諸段階、種間相互作用、個体群の相当な割合を支えており、それによって地球規模の生物多様性に貢献している湿地 基準8：採餌場、産卵場、稚魚の生育場、回遊路として湿地内外の魚類資源が依存している湿地 基準9：湿地に依存する、鳥類以外の動物の一種又は一亜種の一個体群の個体数の1%を定期的に支えている湿地
4	「鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律」 (平成14年7月12日法律第88号)	国指定鳥獣保護区 特：特別保護地区 特指：特別保護指定区域 道指定鳥獣保護区
5	環境省「生物多様性の観点から重要度の高い湿地(重要湿地)（2025年閲覧）」	基準1：湿原・塩性湿地、河川・湖沼、干潟・マングローブ林、藻場、サンゴ礁のうち、生物の生育・生息地として典型的または相当の規模の面積を有している場合 基準2：希少種、固有種等が生育・生息している場合 基準3：多様な生物相を有している場合 基準4：特定の種の個体群のうち、相当数の割合の個体数が生息する場合 基準5：生物の生活史の中で不可欠な地域（採餌場、産卵場等）である場合

表 5-39 動物の注目すべき生息地の選定基準 (2/3)

番号	選定基準	カテゴリー
6	日本野鳥の会HP「重要野鳥生息地 (IBA) (2025年閲覧)」	A1 : 世界的に絶滅が危惧される種、または全世界で保護の必要がある種が、定期的・恒常的に多数生息している生息地。 A2 : 生息地域限定種 (Restricted-range species) が相当数生息するか、生息している可能性がある生息地。 A3 : ある1種の鳥類の分布域すべてもしくは大半が1つのバイオーム (それぞれの環境に生きている生物全体) に含まれている場合で、そのような特徴をもつ鳥類複数種が混在して生息する生息地、もしくはその可能性がある生息地。 A4 i : 群れを作る水鳥の生物地理的個体群の1%以上が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト。 A4 ii : 群れを作る海鳥または陸鳥の世界の個体数の1%以上が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト。 A4 iii : 1種以上で2万羽以上の水鳥、または1万つがい以上の海鳥が定期的に生息するか、または生息すると考えられるサイト。 A4 iv : 渡りの隘路にあたる場所で、定められた閾値を超える渡り鳥が定期的に利用するボトルネックサイト。
7	コンサベーション・インターナショナル・ジャパンHP「生物多様性の保全の鍵になる重要な地域 (KBA) (2025年閲覧)」	危機性 : 国際自然保護連合 (IUCN) のレッドリストの地域絶滅危惧種 (CR、EN、VU) に分類された種が生息/生育する 非代替性 : a) 限られた範囲にのみ分布している種 (RR) が生息/生育する b) 広い範囲に分布するが特定の場所に集中している種が生息/生育する c) 世界的にみて個体が一時的に集中する重要な場所 d) 世界的にみて顕著な個体の繁殖地 e) バイオリージョンに限定される種群が生息/生育する

表 5-40 動物の注目すべき生息地の選定基準 (3/3)

番号	選定基準	カテゴリー
8	「北海道自然環境等保全条例」 (昭和48年12月11日 条例第64号)	原生自然環境保全地域：その区域における自然環境が人の活動によって影響を受けることなく原生の状態を維持しており、当該自然環境を保全することが特に必要な地域。 自然環境保全地域：原生自然環境保全地域以外の区域で、自然的社会的諸条件からみてその区域における自然環境を保全することが特に必要な地域。 道自然環境保全地域：自然環境保全地域に準ずる土地の区域で、その区域の周辺の自然的社会的諸条件からみて、自然環境を保全することが特に必要な地域。 環境緑地保護地区：市町村の市街地及びその周辺地のうち、環境緑地として維持又は造成することが必要な地区。 自然景観保護地区：森林、草生地、山岳、丘陵、溪谷、湖沼、河川、海岸等の所在する地域のうち、良好な自然景観地として保護することが必要な地区。 学術自然保護地区：動物の生息地、植物の生育地及び地質鉱物の所在地のうち、学術上価値のあるものとして保護することが必要な地区。 記念保護樹木：由緒・由来のある樹木又は住民に親しまれている樹木のうち、郷土の記念樹木として保護することが必要なもの。

大空町及びその周囲には、注目すべき生息地の選定基準に該当するものとして、表 5-41 に示すとおり、表 5-38 の番号 1、3、5、6、7、8 に該当する地域が存在する。

大空町及びその周囲における注目すべき生息地の選定基準に該当するものを表 5-41～表 5-43 に、分布は図 5-70～図 5-73 に示すとおりである。

表 5-41 動物の注目すべき生息地 (1/3)

番号	区分	名称	カテゴリー	選定理由・特徴
1	「文化財保護法」	女満別湿生植物群落	国天	低湿地にヤチダモ・ヤチハンノキをおもな上木とする落葉広葉樹の自然林が約2kmにわたって帯状に続いている。その林床にはミズバショウが繁殖し、5月中・下旬の開花期には壮観を呈する。わが北部の低湿地林として、またミズバショウの群落として代表的なもの。
3	「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約）」	濤沸湖	基準1、2、3、5、6	2005年、濤沸湖は、ガンカモ類が毎年6万羽以上飛来し、中でもヒシクイ、オオハクチョウ、ヒドリガモ、ミコアイサ、ウミアイサは東アジア地域個体群の個体数の1%以上を支えていることから、ラムサール条約湿地として登録された。ガンカモ類の重要な中継地や越冬地となっているほか、オジロワシ（一部留鳥）、オオワシも越冬におとずれ、タンチョウは数つがい繁殖している。濤沸湖は海と一部でつながっており、湖口と湖奥では塩分濃度が異なる。湖岸には塩性湿地と淡水湿地があり、湖の中央部にはコアマモの藻場が形成されているなど、多様な環境を有している。魚類についても、海水・汽水魚、回遊魚、淡水魚と約40種が確認され、エビ、カニ、貝類等の底生生物も多数確認されている。湖岸の低地には塩性湿地帯が発達し、オオシバナ、ホソバナシバナ、エゾツルキンバイ、アッケシソウの群落が分布している。淡水湿地帯にはヨシ群落、ヤラメスゲ群落、ヌマガヤヤチヤナギ群落、ハンノキ林が分布している。

表 5-42 動物の注目すべき生息地 (2/3)

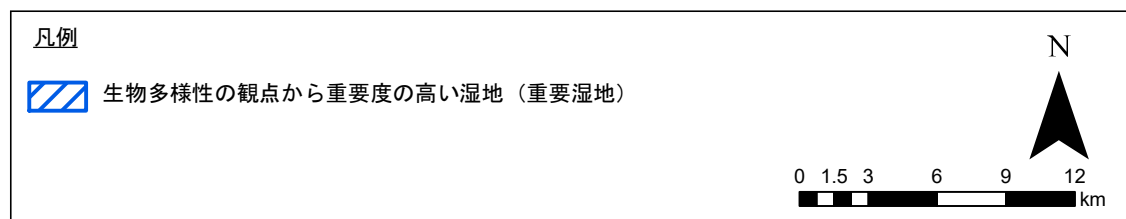
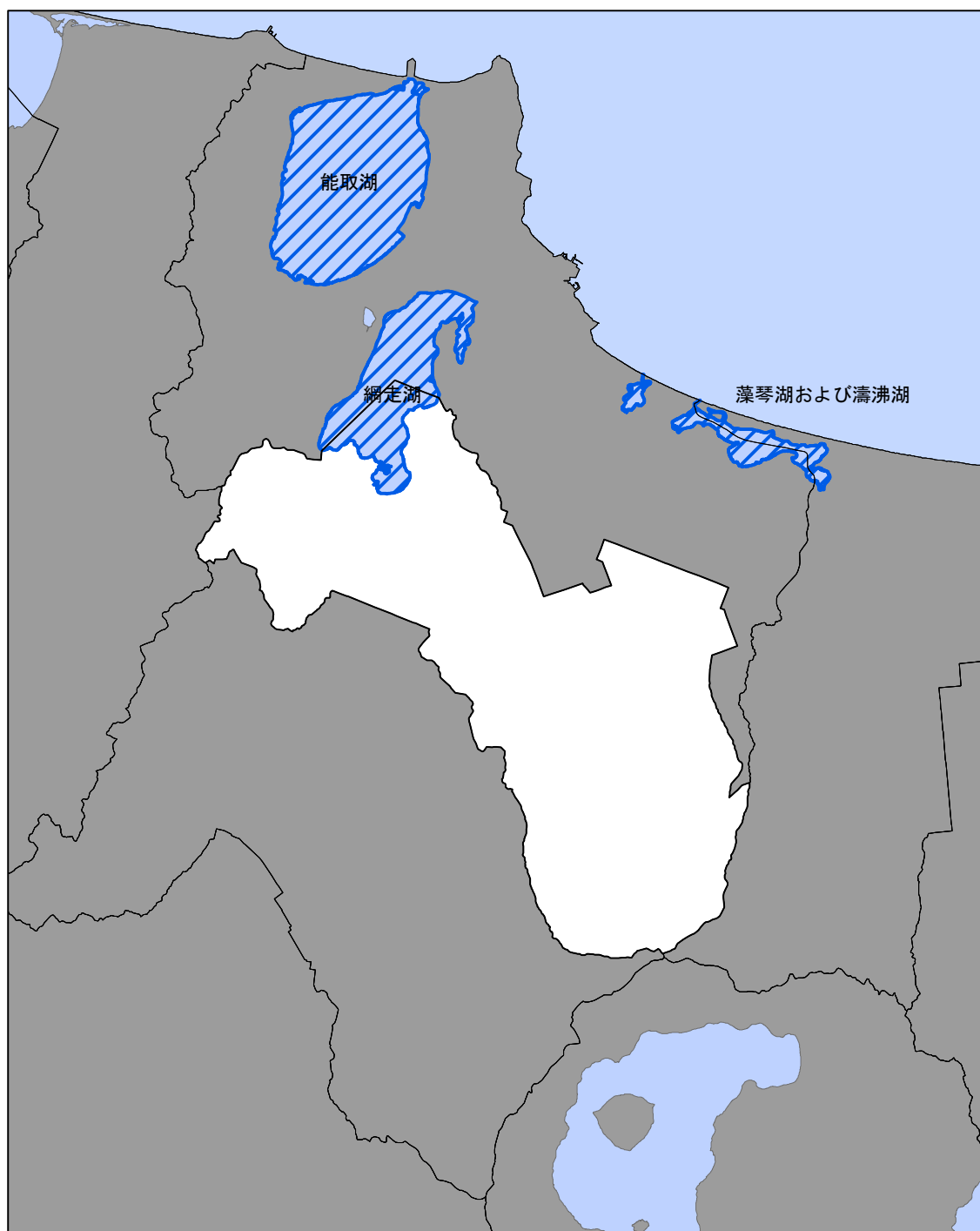
番号	区分	名称	カテゴリー	選定理由
5	「生物多様性の観点から重要度の高い湿地(重要湿地)」	能取湖	基準1、2(海草・海藻)	スゲアマモの広大な海草藻場で、分布は湖内の西岸。大規模なスゲアマモの単純群落。その他、アマモ、コアマモの群落がある。
			基準1、3(底生植物)	ホタテガイ、ホッケイエビの生息地。アッケシソウが生息する広大な塩性湿地を擁し、周辺にはアリアケモドキが生息する。
			基準2、4(ガンカモ類)	オオハクチョウ、ヒシクイ(亜種ヒシクイ)の渡来地。
		網走湖	基準1(湿原植生)	女満別側には大規模なハンノキ・ミズバショウ群落がある。ヤチダモ、ハルニレ、エゾノウワミズザクラ、エゾイラクサ、クサソテツ、オニシモツケ、オオバナノエンレイソウなどの生育地となっている。
			基準1(底生動物)	ヤマトシジミなどの汽水性ベントスの生息地となっている。
			基準2(湿地性鳥類)	タンチョウの繁殖地となっている。
		藻琴湖および濤沸湖(濤沸湖)	基準1(湿原植生)	塩沼地にオオシバナ、ホソバナシバナ、エゾツルキンバイの群落、淡水湿地にヨシ群落、ヤラメスゲ群落、ヌマガヤ・ヤチヤナギ群落、ハンノキ林が形成される。
			基準1(海草・海藻)	コアマモの生育地として相当の規模の面積を有している。
			基準2、4(ガンカモ類)	ヒシクイ(亜種ヒシクイ)、オオハクチョウ、ヒドリガモ、ミコアイサ、カワアイサ、ウミアイサの渡来地。
		藻琴湖および濤沸湖(藻琴湖、濤沸湖、小清水原生花園)	基準2(湿地性鳥類)	タンチョウ、チュウヒの繁殖地。
		藻琴湖および濤沸湖(小清水原生花園)	基準2(昆虫類)	カラフトキリギリス、アカメイトトンボ、カラフトシマケシゲンゴロウ、アナバネコツブゲンゴロウの生息地。
6	「重要野鳥生息地(IBA)」	能取湖・網走湖	A1	タンチョウ
			A3	タンチョウ
			A4i	キアシシギ
		濤沸湖	A1	タンチョウ
			A3	タンチョウ
			A4i	キアシシギ
		阿寒・屈斜路	A1	オオワシ
			A3	シマフクロウ、タンチョウ

表 5-43 動物の注目すべき生息地 (3/3)

番号	区分	名称	カテゴリー	選定理由
7	「生物多様性の保全の鍵になる重要な地域 (KBA)」	能取湖・網走湖	危機性・非代替性	国際自然保護連合 (IUCN) のレッドリストの地域絶滅危惧種 (EN) が1種生息する。バイオーム限定種 (A3) が1種、群れをつくる種 (A4) が1種生息する。
		濤沸湖	危機性・非代替性	国際自然保護連合 (IUCN) のレッドリストの地域絶滅危惧種 (EN) が1種生息する。バイオーム限定種 (A3) が2種、群れをつくる種 (A4) が1種生息する。
		阿寒屈斜路	危機性・非代替性	国際自然保護連合 (IUCN) のレッドリストの地域絶滅危惧種 (EN, VU) が1種ずつ生息する。バイオーム限定種 (A3) が5種生息する。
8	「北海道自然環境等保全条例」	天都山麓環	環境緑地保護地区	広葉樹の天然林
		美英	環境緑地保護地区	神社境内の樹林地
		美富	環境緑地保護地区	市街地の身近な緑地
		共和	環境緑地保護地区	市街地の身近な緑地
		オホーツクの村	環境緑地保護地区	ナショナルトラスト運動地

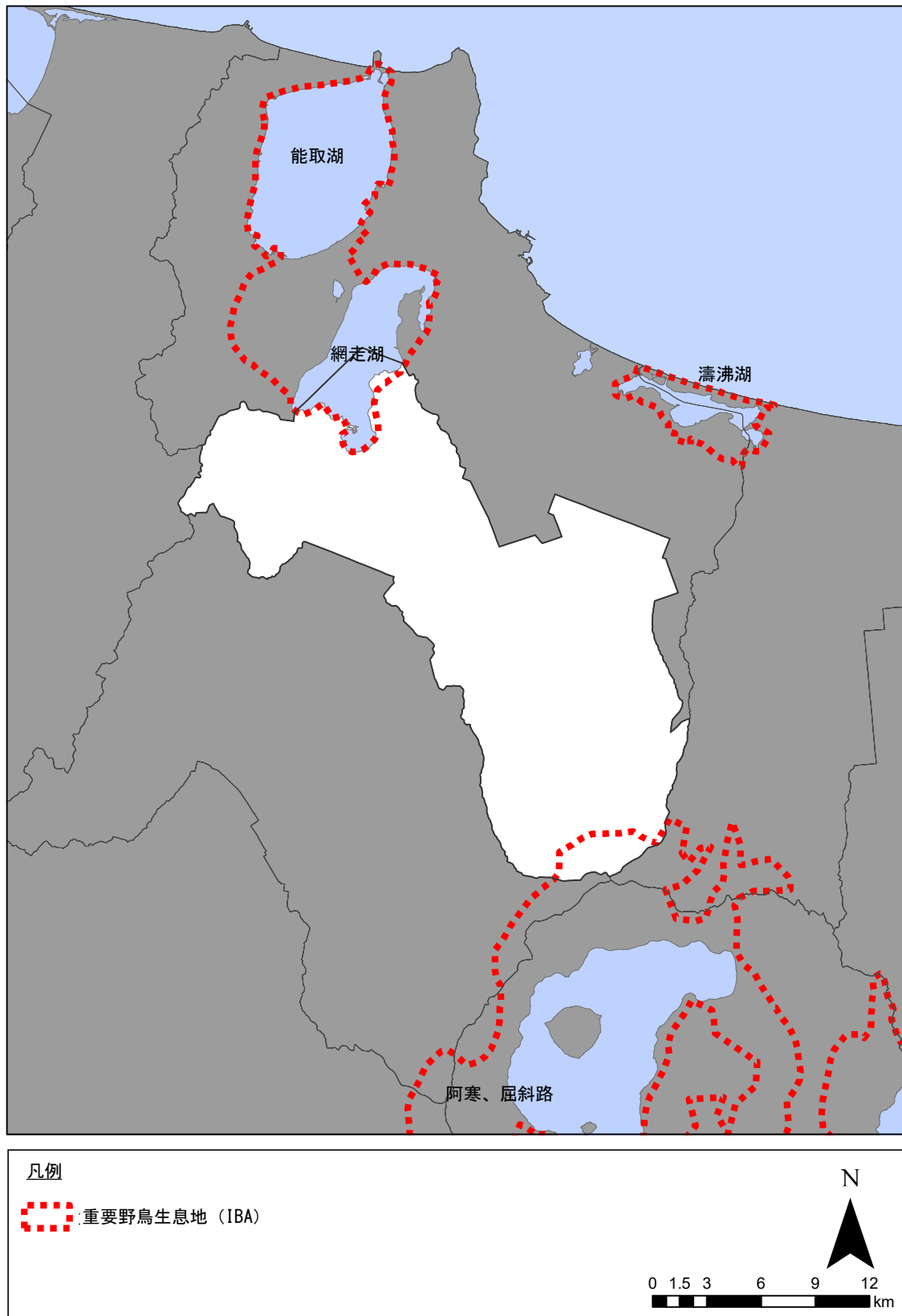
※1) 出典、カテゴリーは表 5-38 に示す通りである。

※2) バイオーム限定種 (A3)、群れをつくる種 (A4) は、重要野鳥生息地 (IBA) の基準である。



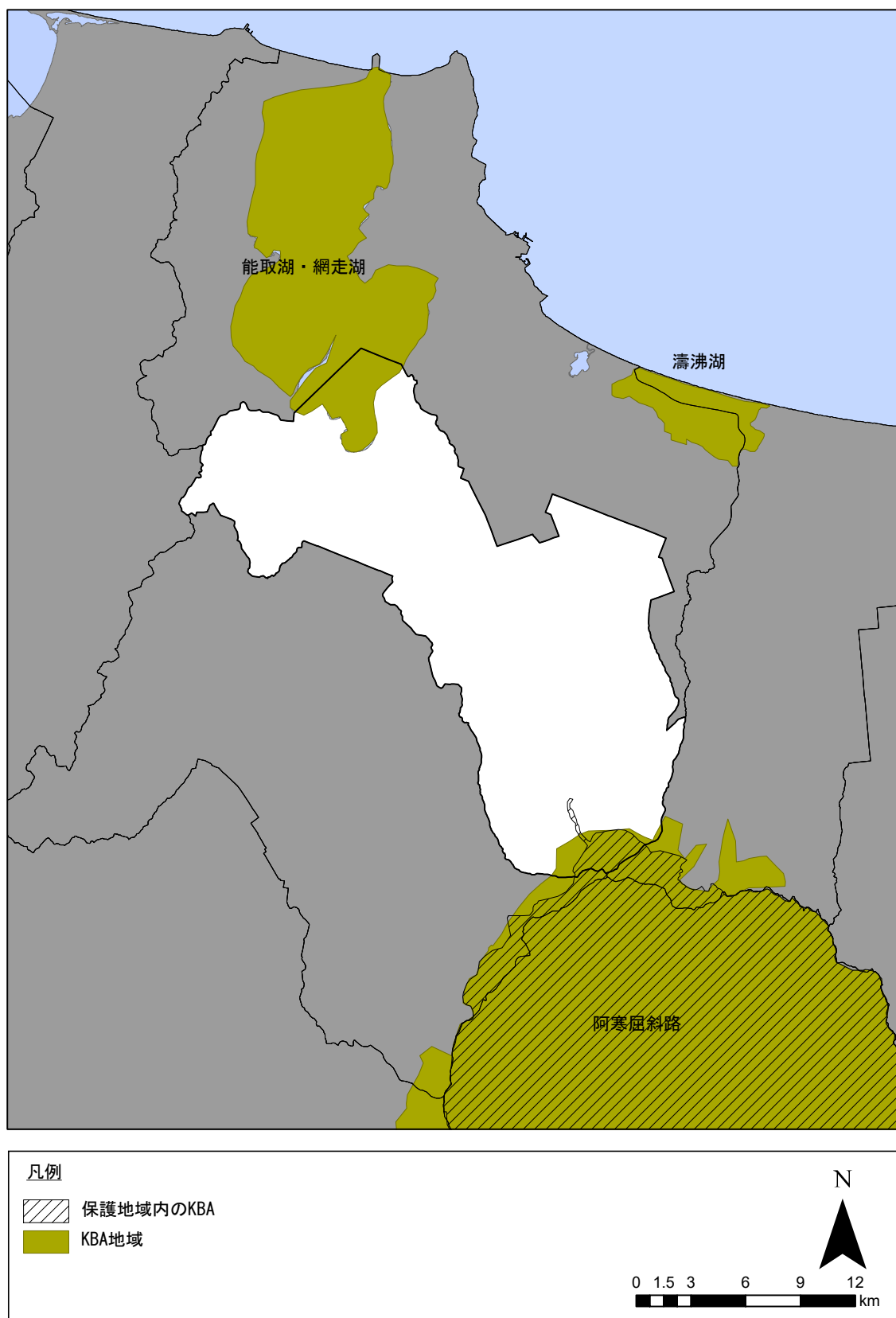
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 生物多様性の観点から重要度の高い湿地（重要湿地）（2025 年閲覧）」を基に作成

図 5-70 重要湿地



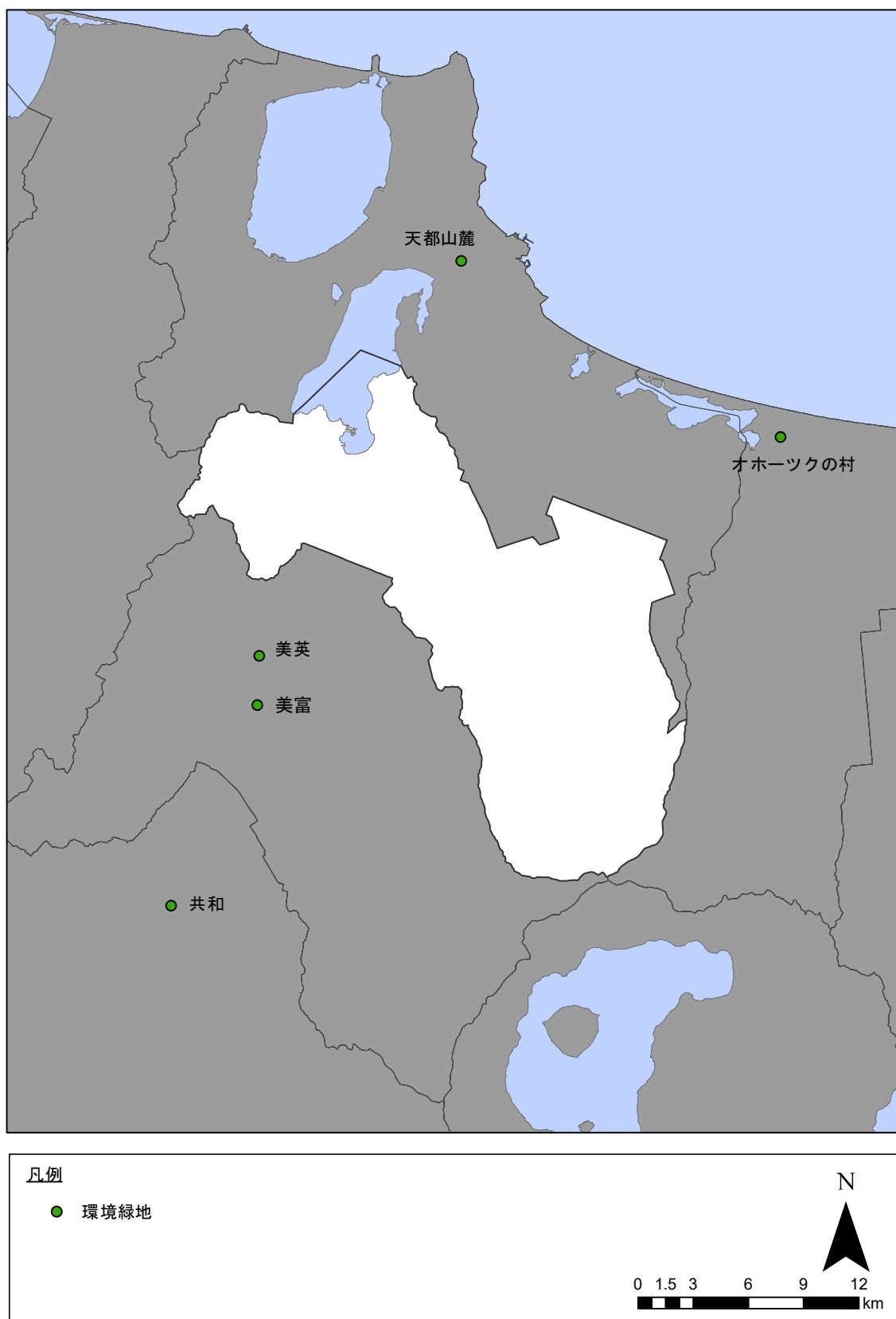
出典：環境省「環境アセスメントデータベース 重要野鳥生息地 (IBA) (2025 年閲覧)」を基に作成

図 5-71 重要野鳥生息地 (IBA)



出典：環境省「環境アセスメントデータベース 生物多様性の保全の鍵になる重要な地域（KBA）（2025 年閲覧）」を基に作成

図 5-72 生物多様性の保全の鍵になる重要な地域（KBA）



出典：北海道「環境緑地保護地区等指定一覧表」を基に作成

図 5-73 環境緑地保護地区等